

(文部科学省平成 29 年度委託事業)

教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業成果報告書

教員研修における ICT 活用推進

(モバイルラーニング等の活用モデル構築)

に関する調査研究事業

平成 30 年 3 月

株式会社 早稲田アカデミー

中堅教諭等の資質能力向上に活かす

学校が直面する課題をテーマとした、研修づくりの手立てをモデル化できた

- ・チーム学校づくりにつながる、教員間の協働連携強化に役立った
- ・市内の学校に共有できるよう、なら学びの広場に公開できる校内研修モデルの実践映像の制作ができた
- ・研究主題に基づく校内研修の企画立案を教育委員会の支援を受けながら行い実施検証したことが、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成に役立った

教科専門スキル向上につながるコンテンツの開発ができた

- ・研修効果に力点を置き協議を重ね、学識者の指導を受けながら小学校・理科を中心に開発・制作した過程そのものが、研修プログラムの参考事例として他の自治体に紹介できるものとなった

ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

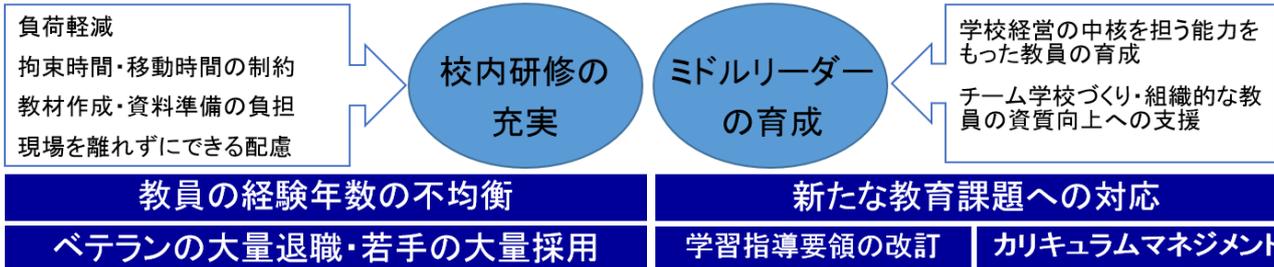
- ・ICT(クラウド)を活用した校内研修モデルを提示し、ミドルリーダーによる能動的な校内研修を実施する機会となった
- ・ミドルリーダー等が企画立案したミニ研修の実施を通じて、主催したミドルリーダーの育成強化につながった

中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発活用モデルづくり

- ・中堅教諭等の資質向上に係る課題解決、教科専門性を高めるコンテンツ開発を協議検討し、学識者に指導講評を戴いた
- ・研修コンテンツと活用モデルの次年度研修での実施・検証の見通しが立った

ICT(クラウド)の活用で課題解決・充実！

教員研修におけるICT活用推進(モバイルラーニング等の活用)



目次

I 本事業の概要

- | | |
|--------------------|------|
| (1) 課題認識 | p. 3 |
| (2) 調査研究のテーマ・目的 | p. 3 |
| (3) 調査研究の内容 | p. 4 |
| (4) 調査研究の方法 | p. 4 |
| (5) 調査研究の実施体制・実施状況 | p. 5 |

II ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

- | | |
|------------|-------|
| (1) 実施概要 | p. 8 |
| (2) 具体的な取組 | p. 9 |
| (3) 成果と課題 | p. 20 |

III 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

- | | |
|------------|-------|
| (1) 実施概要 | p. 21 |
| (2) 具体的な取組 | p. 23 |
| (3) 成果と課題 | p. 30 |

IV 教員研修におけるICT(クラウド)活用促進にむけて

- | | |
|------------|-------|
| (1) 具体的な取組 | p. 31 |
| (2) 成果と課題 | p. 38 |

V 第三者評価委員会の実施報告

- | | |
|--------------------|-------|
| (1) 第三者評価委員会の概要 | p. 39 |
| (2) 第三者評価委員の講評(抜粋) | p. 39 |

VI まとめ

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 取組のポイントと成果 | p. 41 |
| (2) 平成30年度に向けて | p. 42 |

I 本事業の概要

(1) 課題認識

我が国が将来に向けて継続的に発展・繁栄を維持していくためには、様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が必要不可欠です。そして、いかに時代が変化しようとも、子供たちの成長を担う教員は、求められる資質能力を高め育むだけでなく、その時代の背景や要請を踏まえつつ、その資質の向上を図り続けることが求められています。

また、社会情勢や産業構造が変化し、加速度的にグローバル化・情報化が進展する中で、教育課程・授業方法の改革（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、教科横断的なカリキュラム・マネジメント）への対応、英語教育改革、道徳の教科化、ICT教育の推進、特別支援教育の充実等、対応が求められる領域も広がっています。

一方でベテラン教員と若手教員の年齢構成の二極化や経験年数の不均衡が進み、学校運営や若手育成の中心を担う中堅教員の割合が相対的に低下しています。従来の学校組織において自然に行われてきた、経験豊富なベテラン教員から若手教員への知識及び技術等の承継が難しい状況になっており、教員としての資質向上を図り続けるための環境や仕組みを整える必要があります。

特に今後の教育を担う若手教員の指導力向上は必須であり、その指導的役割を担うミドルリーダーを育成することは極めて重要です。教員の負荷を増大させることなく、教員が効率的に資質向上に取り組むことができるよう、校内でもミニ研修や研究会、自主学習を行うための教材等を整備し、活用例を提示する必要があると考えます。

そして、ミドルリーダーとして学校運営における中核的な役割が期待されている中堅教員は、自身の教科指導力の向上と共に、学校運営に必要な資質能力の向上に努め、社会の変化・改革に対応することが求められています。既に様々な校務を担い、多忙で時間確保が困難な中堅教員の資質能力を高める上で、校内研修や法定研修である中堅教諭等資質向上研修の実施・受講にかかる負荷を軽減しながら研修効果を高める工夫が極めて重要であると考えます。

(2) 調査研究のテーマ・目的

1. テーマ

「教員研修における ICT 活用推進（モバイルラーニング等の活用モデル構築）に関する調査研究事業」をテーマとして設定し、中堅教諭の資質能力向上を実現するための ICT 活用施策について、校内研修の企画・実施、中堅教諭等資質向上研修用教材の制作と活用プログラムの開発を通じて調査研究を実施しました。

2. 目的

日々様々な業務や対応に追われる教員が、ワーク・ライフ・バランスを良好に保ちながら、資質能力の向上を図るためには、効率的且つ体系的に力量形成ができるツールの整備が必要です。本事業では前述の課題認識をふまえ、調査研究主題を「教員研修における ICT 活用推進（M ラーニング等の活用モデル構築）に関する調査研究事業」とし、奈良市の研修用クラウド「なら学びの広場」と当社の研修ノウハウを活かした研修教材と研修プログラムの開発に取り組みました。

そして ICT を活用することで、研修負荷に配慮しつつ研修の効率化と充実を図り、中堅教員の資質能力向上において変化・変容が見られたか、効果検証をすることで、他の自治体においても参考にいただける研修モデルとすることを目指しました。

(3) 調査研究の内容

1. ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

当社は前年度事業で M ラーニングを活用した校内研修プログラムを高等学校で実践し、一定の成果を得ました。校内研修は常に自身の資質能力向上を図り続けることが求められている教員にとって重要な研究機会であり、教員自身の成長だけでなく、児童生徒のよりよい成長のためにも欠かすことのできないものです。研修準備・実施を通じて、ミドルリーダーを育成し、成長を促す機会にもなります。

本事業においてはその成果を応用し、奈良市が指定した学校で研究主題に基づいて校内研修をミドルリーダーが企画立案・実行し、学校が直面する課題を解決するための研修・研究に取り組みました。そして、小中学校での実践モデルとして紹介するコンテンツを作成し、今後同様の研修を広げていくための参考資料も作成しました。M ラーニング等の ICT 活用推進により、チーム学校づくりにつながる教員間の協働を進めることも、シナジーとしてねらいました。

2. 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

中堅教諭等資質向上研修は、学校運営における中核的な役割を果たす中堅教員の力量を高める上で重要な機会です。そして教特法改正の趣旨に照らし、キャリアに応じて段階的・弾力的に受講できるよう、従来の研修制度からの変化が求められていると考えます。

そこで本事業では、中堅教諭等資質向上研修の受講対象者（4 年次～11 年次）に必要とされる学校運営の中間管理における資質能力や教科指導における専門的なスキルを高めるためのコンテンツ開発を目指しました。

そして、ICT を活用した研修プログラムとすることで、個別の事情に応じて、効率的且つ弾力的に受講できる体制を整え、多忙感や負荷に配慮しながら、対面・集合研修と同等の研修効果が得られるよう留意しました。

なお、今回開発したコンテンツは教育委員会が主催する他の研修ではもちろん、校内研修や自己研鑽等で有効活用できるものです。本事業では開発したコンテンツを広く活用していくための方法の考察を行い、ICT（クラウドやデジタル教材、映像コンテンツ等）の活用が、教員の資質向上と日々の課題の解決に活かされることも目指しました。

(4) 調査研究の方法

1. ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

奈良市内のモデル校（二名小学校・京西中学校）のミドルリーダーが中心となって、学校の教育目標や研究主題に基づいて校内研修企画立案・実施し、評価、事前協議、実施状況の視察、事後の振り返り等を行いました。

2. 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

本事業では中堅教員の特に教科指導における専門スキルの向上に役立つ内容について教育委員会と協議検討し、中堅教諭等資質向上研修の担当講師による監修をふまえてまとめ、制作およびプログラムの構築をしました。

本事業で開発した研修コンテンツやプログラムをアップロードし、今後運用していく上で基盤となるクラウド「なら学びの広場」についても、活用状況を確認し、奈良市教員アンケートの集約・分析結果を評価することで、今後のクラウド活用の指針とすることとしました。

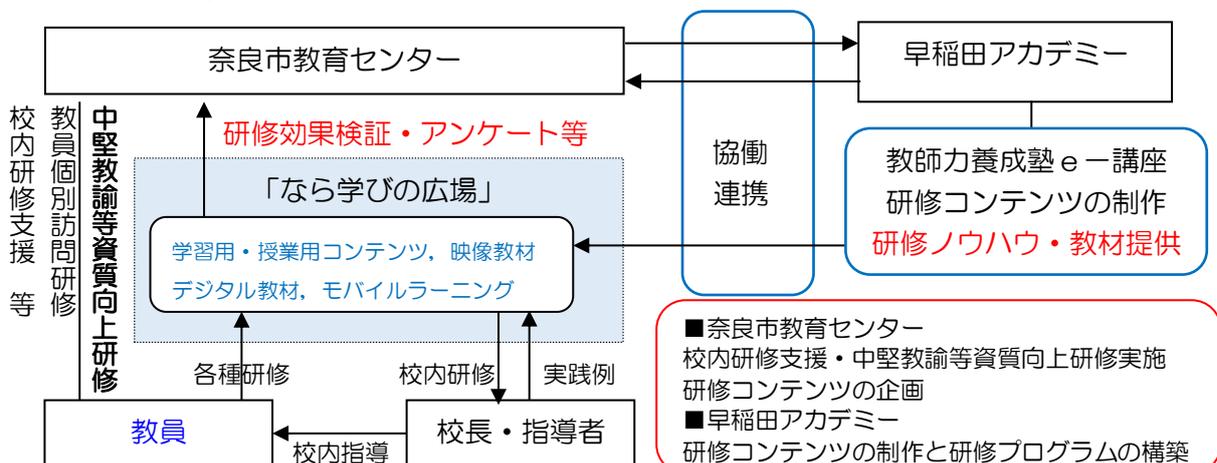
(5) 調査研究の実施体制・実施状況

1. 実施体制

所属部署・職名	氏名	役割分担
■早稲田アカデミー 営業戦略部次長 兼事業推進課長	杉山 正典	事業実施責任者（全体統括）
人材開発部育成課 上席専門職	牛嶋 孝輔	事業実務担当（調査研究主担当）
営業戦略部事業推進課 事務主任	川上 愛美	契約庶務・事業実務担当（調査研究担当）
営業戦略部事業推進課 事務	石原 麻江	事業事務担当（調査研究補佐）
営業戦略部事業推進課 事務	赤堀 滋乃	事業事務担当（成果物作成補佐）
営業戦略部事業推進課 事務	矢嶋 愛	事業事務担当（成果物作成補佐）
■奈良市教育委員会 教育支援課 課長	廣岡 由美	奈良市教職員研修実施責任者（奈良市統括）
教育支援課 課長補佐	垣見 弘明	奈良市教職員研修実務担当者
教育支援課 教員支援室室長	吉元 祐介	奈良市での訪問研修実務担当者
教育支援課 研修・研究係長	皿木 博幸	奈良市教職員研修実務担当者
教育支援課 指導主事	神田 裕之	奈良市教職員研修実務担当者
教育支援課 指導主事	茅田 弘子	奈良市教職員研修実務担当者

2. 奈良市教育委員会との協働連携

本事業は、児童生徒の学力向上を図るための施策（学校教員の資質能力向上・指導力向上の推進）の一環として、ICT環境を活用した研修モデルの構築を図る奈良市教育委員会と協働連携して事業を実施しました。



3. 第三者評価委員（敬称略）

所属・職名	氏名	担当・役割
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 特任教授	島 善信	第三者評価委員
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 教授	岡田 耕治	第三者評価委員
国立大学法人奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授	赤沢 早人	第三者評価委員

その他、調査研究の研修実践にあたり、奈良市立二名小学校、京西中学校、各校関係者のご協力を賜りました。

4. 実施状況

①協働連携会議の実施

回数・実施日・会場	主な会議の議題
第1回 平成29年5月25日 @奈良市教育センター 杉山・牛嶋・川上 廣岡・垣見・皿木 神田・多田	(1) H28年度文部科学省委託事業の成果と課題について（情報共有） (2) H29年度連携に向けた背景・課題認識について（意見交換） (3) 今年度事業実施内容と実施スケジュールについて（協議） ・校内研修モデルの構築 ・中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築
第2回 平成29年7月27日 @奈良市教育センター 杉山・牛嶋・川上 廣岡・垣見・皿木 神田・多田	(1) 校内研修モデルの構築 ・実施モデル校との打ち合わせ事項（情報共有・協議） ・8月29日研修のねらいと研修までの流れ（情報共有・協議） (2) 中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築 コンテンツ内容及び実施形態、制作方法について（意見交換・協議） (3) 「なら学びの広場」活用状況について（情報共有） (4) 今後の事業実施スケジュールについて（情報共有）
第3回 平成29年8月30日 @奈良市教育センター 杉山・牛嶋・川上 廣岡・垣見・皿木 神田・多田	(1) 校内研修モデルの構築 ・校内研修企画立案について（意見交換・協議） ・8月29日研修内容について（協議） (2) 中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築 ・コンテンツの内容及び制作方法、研修活用について（意見交換・協議） (3) 「なら学びの広場」活用状況の共有（月次アクセス数等） ・月次アクセス数等活用状況の推移（情報共有） (4) 今後の事業実施スケジュール（情報共有）
第4回 平成29年9月29日 @奈良市教育センター 杉山・牛嶋・川上 廣岡・垣見・皿木	(1) 校内研修モデルの構築 ・モデル校の研修実施スケジュール（情報共有） ・モデル校の校内研修実施内容（意見交換・協議） (2) 中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築 ・パイロット版映像構成について（意見交換・協議） (3) 「なら学びの広場」活用状況の共有 ・月次アクセス数等活用状況の推移 ・奈良市教員アンケートの実施時期について（情報共有） アンケート項目について（意見交換） (4) 今後の事業実施スケジュール（情報共有）
第5回	(1) 校内研修モデルの構築

平成 29 年 12 月 19 日 @奈良市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校の校内研修実施状況について（情報共有） ・今後の校内研修内容について（意見交換・協議）
杉山・牛嶋・川上 廣岡・垣見・皿木・神田	<ul style="list-style-type: none"> (2) 中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・パイロット版映像の確認，修正箇所について（意見交換・協議） ・次年度研修の組み込み方，周辺ツールについて（意見交換・協議） (3) 「なら学びの広場」活用状況について <ul style="list-style-type: none"> ・月次アクセス数等活用状況の推移（情報共有） ・奈良市教員アンケート内容・途中集計状況について（情報共有） (4) 成果報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の中間総括 成果と課題について（意見交換） ・成果報告書作成のスケジュール（情報共有）
第 6 回 平成 30 年 2 月 19 日 @奈良市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> (1) 校内研修モデルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校の校内研修実施状況について（情報共有） ・京西中学校の校内研修（研究発表）について（情報共有） (2) 中堅教諭等資質向上研修用コンテンツの開発及び活用モデルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・パイロット版映像の修正版について（意見交換・協議） ・その他制作（構成やコンテ・映像素材等）について（意見交換・協議） (3) 「なら学びの広場」活用状況の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・月次アクセス数等活用状況の推移（情報共有） ・奈良市教員アンケート内容・集計状況（情報共有）
杉山・牛嶋・川上 垣見	
第 7 回 平成 30 年 2 月 28 日 @奈良市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第三者評価会の実施に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料について（情報共有） ・評価会内容及び進め方について（意見交換・協議） (2) 成果報告書の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・報告書修正箇所の洗い出し，修正内容について（意見交換・協議） ・成果報告書作成のスケジュールについて（情報共有） (3) 成果物の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修モデルの事例映像構成について（意見交換・協議） ・中堅教諭等資質向上研修映像コンテンツ制作スケジュール（情報共有）
杉山・牛嶋・川上 垣見・皿木・神田	

②研修見学・研修実践・第三者評価委員会

日付	実施概要
1) 研修見学記録	
平成 29 年 5 月 26 日	京西中学校訪問・校内研修概要説明
平成 29 年 7 月 27 日	二名小学校訪問・校内研修概要説明
平成 29 年 7 月 28 日	中堅教諭等資質向上研修視察
2) 研修実践記録	
平成 29 年 8 月 29 日	二名小学校校内研修モデルの実践
平成 29 年 11 月 20 日	二名小学校校内研修実践①
平成 29 年 11 月 27 日	京西中学校校内研修実践①
平成 29 年 12 月 18 日	京西中学校校内研修実践②
平成 29 年 12 月 25 日	二名小学校校内研修実践②
平成 30 年 2 月 19 日	京西中学校校内研修実践③（研究発表実践）
3) 第三者評価委員会	
平成 30 年 3 月 1 日	第三者評価委員会実施

Ⅱ ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

(1) 実施概要

1. 取組の概要

前年度事業で実施した大阪府立高等学校での校内研修モデルを応用し、奈良市が指定した学校で研究主題に基づいて校内研修をミドルリーダーが企画立案・実行し、学校が直面する課題を解決するための研修・研究への取組を通じて、ミドルリーダーの育成や成長を促す機会となることを目指しました。

あわせて小中学校での実践モデルとして紹介するコンテンツを作成し奈良市内で同様の研修を拡げていく上で参考となる実践モデルづくりも目指しました。M ラーニング等の ICT 活用推進により、チーム学校づくりにつながる教員間の協働を進めることも、シナジーとしてねらいました。

具体的には当社講師と指導主事が協働して校内研修モデルを提示し、ミドルリーダー含めモデル校の教員に映像コンテンツを活用した研修を体験してもらいました。その上でモデル校のミドルリーダーが研修テーマやねらい、運営形態などを自校の実状に即して設定し、1 回目の校内研修を実施しました。1 回目の実施後に研修を担当したミドルリーダーが成果と課題を振り返り、指導主事が改善・向上のための指導・助言を行いました。モデル校で取り組んだ成果を共有し、市内で校内研修の実践事例として、浸透を図るために中学校区内の小中学校教員の参加も呼びかけ、小中教員合同の校内研修も実施しました。

2. プログラムの特長

「なら学びの広場」には、デジタル教材や映像コンテンツが多数アップロードされています。それらを有効活用することで、教材準備や資料作成にかかる時間的な負荷の軽減を図りながら各校の研究主題や直面する課題に即した校内研修が実施できます。そして、研修の企画立案、実施、評価のプロセスを進める中で、中堅教員は校内を俯瞰して課題発見し、解決に向けて教員間の協働を促す実務を主体的に経験することになります。

10 年後を見据えるとミドルリーダーの育成が急務とされる中、ミドルリーダーによる「なら学びの広場」を活用した校内研修の実践で拡げることが有意義な取組であると考えます。現場の多忙感をふまえ、全教職員参加型のみならず、学年、教科、年次等の小集団で行うミニ研修型が実態に沿うと考えられるため、弾力的に研修が実施できるプログラムとしています。

3. 成果について

モデル校での取組の成果を共有した小中合同校内研修会を実施し、参加者は「なら学びの広場」のコンテンツを活用することでミニ校内研修形式の研修がすぐに実践できることが認知されただけでなく、各校がもつ知見を活かし、共有する機会をミドルリーダーがファシリテーターとなって設けることの意義を感じたとともに、多忙な校務の中で研修時間を確保すること、限られた時間の中で深めることの難しさも感じたようです。

ミドルリーダーがこれまでの経験をふまえて実施した研修だからこそ、若手教員にとっては学びが多く、中堅ベテラン教員にとっても参考になる研修実践となったと思われます。モデル校のミドルリーダーからの聞き取りや、管理職や指導主事の見とりから、研修の企画立案、実施、評価のプロセスを通じて課題に対する考察を重ね、解決のための手立てを考え、発表する機会が得られ、学びが大きく、ミドルリーダーの成長の機会になったと言えます。そして、各校とも回を重ねる毎に」進行がスムーズになり、内容にも深まりが見られたのは、教員間で協働して自校の課題解決や児童生徒のよりよい成長につなげていこうとする意欲の高まりによるものと思われます。

ICT 環境（クラウド・モバイルラーニング等）の活用により、資料作成負荷が軽減されるため、ミドルリーダーは研修成果の向上に注力して準備を行うことができるようになりました。そして、

いつでも、どこでも見られるため、少人数でのミニ研修も手軽に行うことができ、具体物を提示しながら、中堅ベテラン教員が若手教員にワンポイントアドバイスをすることも可能になります。校務のすきまで昨今難しいとされているノウハウの継承ができるため、研修を効率的に行うための教材開発と実践の継続に取り組むべきであるという結論に至っています。本事業の取組の詳細については、以下をご確認ください。

(2) 具体的な取組

1. 研修モデルの提示

①実施の概要

- ・実施日時 平成 29 年 8 月 29 日 13 : 30-15 : 00
- ・対象 22 名 (二名小学校教員 20 名 + 京西中学校教員 2 名)
- ・場所 奈良市教育センター
- ・担当 奈良市教育センター 皿木 博幸 係長・神田 裕之 指導主事
早稲田アカデミー 杉山・牛嶋

・ねらい 「なら学びの広場」を活用した「組織づくりと若手教員の育成」の研修モデルを紹介し、体験することを通して校内研修モデルを二名小学校、京西中学校のミドルリーダーが企画立案・実施・評価するための「きっかけ」とする。

②研修の流れと様子

時間	内容
13 : 30～	○ 研修の目的・講師紹介・奈良市と当社との協働の概要説明
13 : 40～	○ 早稲田アカデミーの講師研修の仕組みについて ○ 奈良市の初任者研修の概要説明
13 : 50～	○ 「なら学びの広場」(M ラーニング) を活用した校内研修事例の紹介
14 : 00～	○ 「なら学びの広場」(M ラーニング) を活用した校内研修事例の体験
14 : 50～	○ まとめと振り返り
14 : 55～	○ アンケート記入・回収



Mラーニング課題映像の視聴



ペアワーク



各グループの発表

③当日のアンケート評価やコメント

①研修内容の分かりやすさ

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	12	8	0	0	0	3.6
京西中	1	1	0	0	0	3.5
計	13	9	0	0	0	3.59

②研修での学びの実践での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	5	14	1	0	0	3.2
京西中	1	1	0	0	0	3.5
計	6	15	1	0	0	3.22

③研修の進め方の校内研修での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	8	11	1	0	0	3.35
京西中	1	1	0	0	0	3.5
計	9	12	1	0	0	3.43

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

アンケートより、95%以上の教員が肯定的に回答しました。本研修の主目的である、「③研修の進め方の校内研修の活用度」の項目については、約 90%の教員が肯定的に回答しました。アンケート内容から、「研修モデルの提示」は研修のねらいに照らして概ね達成できたものと評価できます。

アンケートのコメント抜粋

- ・普段から共に働いている教員に対して問題点を指摘するのは遠慮があるが、Mラーニングの映像だと指摘がしやすく、意見交換がスムーズにできた。
- ・意見を言っているうちに我が身を振り返り、自分自身の授業改善の反省等ができ、以後活かせると感じた。
- ・Think-Pair-Shareの協同学習を取り入れた他の教員との交流の工夫は、職場でも活用しやすいと思った。

※2の評価のコメント

- ・基本的な授業の行為を見直す上では役立ったが、もう少し様々な場面での共有ができるようなものであればさらによいと感じた。

④まとめ

受講者の取組姿勢から、ワークショップにより具体的なミニ研修のイメージも持っていただけようです。また、若手教員が課題を発見し解決方法についての考えを述べる際に、ベテラン教員が傾聴し、対話を通じて若手教員の考えを引き出したり深めたりする姿も見られました。

当日の学びを学校に持ち帰り、ミドルリーダーが中心となって自校の教育目標や教育課題から研修主題を設定し、校内研修の企画立案・実施のイメージできたことが、指導主事による校長、研修担当者へのヒアリングや、11月以降に実施した校内研修からも読み取れます。ミドルリーダーの呼びかけで、学年単位、教科単位、希望者単位等で自発的な勉強会にも応用できそうです。

2. 小学校での校内研修実践（二名小学校）

①学校概要

- ・モデル校選定理由

「イブニング研修」として教員が主体となり自主的な研修を実施しており、今後研修のサポートとして指導主事が関わる予定があり、夏季休業中にMラーニングの活用について研修依頼があったため。

- ・研究モデル校プロフィール

校区の状況 校区のほとんどを新興マンションや住宅街が占め、保護者の教育に対する関心も高い。

児童数 全校児童 427名、18学級（うち特別支援2学級）※平成29年4月現在

教員数 27名 経験10年未満の若手教員が増加する傾向にある。

- ・目標

教育目標 「人権尊重の精神を基盤として、奈良市教育基本計画の趣旨を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成と互いに支え合い高め合う集団づくりを目指す。」

めざす教師像 「プロとして信頼される教師」

めざす児童像 やさしく支え合う子（豊かな感性をもち、思いやりの心で支え合う子）

健やかに育つ子（自他の健康・安全に気を付けて、健やかに成長する子）

しなやかに考え実践する子（自ら学ぶ意欲をもち、正しく判断・実践する子）

学校研修主題 「地域・保護者との連携」と「集団指導や学級経営の力量向上」

- ・学校の課題認識

若手教員の各教科・領域における授業力の向上。経験豊富な教員の授業や学級運営のノウハウを継承すること。児童や保護者に関わる問題事象について、迅速で的確な対応ができる児童指導のノウハウや保護者対応の際のポイントやコツを獲得すること。

- ・ミドルリーダーのプロフィール

研究主任 A 教諭 経験年数 19年。研究主任として年間研修計画や研究テーマを設定し校内研究授業等で、若手教員が学び合える環境を構築。

生徒指導主任 B 教諭 経験年数 14年。生徒指導主任として豊富な経験を生かし、児童や保護者に対する具体的な対応を若手教員に対してアドバイスする立場。

②校内研修の実施 [1回目]

1) 実施の概要

- ・日時 平成29年11月20日 15:40～16:40
- ・場所 二名小学校
- ・研修担当 A教諭・B教諭（ファシリテーター）
- ・受講者 二名小学校有志17名

・テーマ	のびのび研修「保護者対応について学び合う」
・設定理由	保護者対応が必要となる事案が多様化する傾向にある中で、対応に苦慮するケースが発生している。そのため特に若手教員の保護者対応スキルの向上を図る必要を認識しているため

- ・成果目標 保護者対応について学び合い、実際の保護者対応に活かす
- ・手法 Mラーニングの視聴と演習
- ・教材 「なら学びの広場」Mラーニング保護者対応編「保護者対応の基本」・ワークシート

2) 研修の流れと様子

前半は、課題映像を視聴して、課題を発見し、課題改善のための具体的な行動について個々に考え、グループ協議と発表を通して学びを深めました。後半は、3グループに分けて実際に校内で起きた保護者対応での課題と対解決方法について共有後、課題改善のために実際にどのような行動を取るか、具体的なイメージを共有しました。

時間	内 容
15:40～	○ファシリテーターによる、当研修の目的、内容、流れの説明
15:45～	○Mラーニング（保護者対応編）を用いたワークショップ 〔・動画視聴 ・課題書き出し ・グループワーク ・発表、全体共有〕
16:10～	○二名小学校の保護者対応事例の意見交換・検討（小グループ） ・事例の共有 ・実際に対応した教員の説明 ・当該教員を中心に、今後の対応を協議・対応方法の共有
16:40	○まとめ（ファシリテーターより）



Mラーニング 課題映像の視聴



グループワークでの学びを全体共有



実際に学校で起きた事象をもとに協議

3) 当日のアンケート評価やコメント

業務での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	9	4	0	0	0	3.7

Mラーニング等の活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	4	6	2	1	0	3

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

「アドバイスをいただいで今後の力になった」とあるように、若手教員と中堅・ベテラン教員がのびのび

のびのび研修とある通り、Mラーニングを活用して研修のきっかけ（課題提起）として、保護者対応の基本的な考え方について共有を図りながら、受講者間の対話を通じて、日々の経験に照らし合わせて振り返り省察することができたようでした。「悩みを話せてスッキリした」「アドバイス

と交流しながら学び合うという研修のねらいが達成できたものと考えます。後半に、実際に学校で起きた事象について共に考えるワークが入り、前半の交流が活かされました。

アンケートのコメント抜粋

M ラーニング等の活用度について

苦手同士でやるのは有効だ／保護者対応を改めて考えることができた／話し合うことがよかった／自分の指導に対して振り返りができた／現在の悩みと似た内容があった／短くて分かりやすい

M ラーニングで2・1の評価のコメント

動画の内容が浅い／実際にある対応よりかけ離れすぎているので、もっと現場に近いものがよい

保護者対応の基本について、若手教員がうっかり躓きやすいところに焦点化した課題映像であるため、研修の導入として活用した後で、本研修のように対話の促進を図れるものとなっている。

4) まとめ（指導主事所見）

現在進行形での課題となっている保護者対応をテーマに設定したことで、参加した教員は、「自分事」として主体的に研修に参加できたと思われます。前半に保護者対応に係る一般的な内容を、後半に実際に対応中の具体内容を設定したことで、参加者の意識も、定石化された対応から具体の対応へスムーズに流れていました。前半はMラーニングを活用しましたが、短時間のうちに対応のポイントが意図的に盛り込まれており、能率的に学べるものでした。後半は、実際に対応する中での悩みを吐露し、周りの教員と話し合う中で今後の対応に少し光が差した教員も見られました。このような研修は、日々の指導にダイレクトに生かされることになるので、特に若手教員にとっては有意義なものとなりました。

③校内研修の実施 [2回目]

1) 実施の概要

- ・日時 平成29年12月25日 14:05～16:45
- ・場所 二名小学校
- ・研修担当 C教頭（ファシリテーター）
- ・受講者 二名小学校有志7名

- ・テーマ のびのび研修「図画工作科と国語科の実践例」
図画工作科「色づくり、写生と作品展示（作品保護）について」
国語科「漢字の学習について」
- ・設定理由 教科指導における指導力の向上については、特に若手教員の課題となっており、経験豊かで指導力のある教員から、学ぶ機会をつくることで教科指導力向上につながることを考えたため

- ・成果目標 教科指導について、その具体を学び合い、実際の授業に生かす
- ・手法 「なら学びの広場」から教材をダウンロードし使用。図画工作科で、絵の具やパレットの使い方、筆洗いの置き方や画用紙の選び方等について学んだ後で、実際に絵の具を使用して季節の自然を描く実技演習を行った
- ・教材 「なら学びの広場」教材のひろば「図画工作・美術のたね」より児童の作品等

2) 研修の流れと様子

研修の中に実技が組み込まれ、実際に受講者は児童の立場で枝葉を写生した後、色づけ、台紙（色画用紙）選び、厚紙の台紙に表装、落款の作成を行いました。

時間	内 容
14：05～	○ファシリテーターによる基礎的内容の説明
14：30～	○「なら学びの広場」内資料を用いた説明 作品，作品展示等の具体例
14：40～	○実技演習「季節の自然を描く」（写生）
16：30～	○ファシリテーターによる国語（漢字）についての概論・ゲーム
16：45	まとめ（ファシリテーターより）



教材のひろば（図画工作・美術のたね）を活用



実際に絵の具を使って描画体



国語科（漢字のしりとりにゲーム）

3) 当日のアンケート評価やコメント

業務での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	6	1	0	0	0	3.9

Mラーニング等の活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
二名小	1	2	3	1	0	2.4

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

アンケートに肯定的なコメントが多くあり、受講者が意欲的に研修に臨み、明日からの実践に早速活かすイメージをもてたことから、研修のねらいは達成できたものと評価できます。活用の際にはスマートフォンだと画面が小さいという意見があったため、ノートPCやタブレットを用いた方がコンテンツを表示しやすく、研修効果が高まるようです。

アンケートのコメントより

活動することで子どもたちの気持ちが分かってよかった
教科指導で活用できる
早速子どもたちに教えたいと思った
※Mラーニング等の活用度について
実際に児童の描いた作品を見ながら先生の説明を聞いたのがよかった
スマートフォンを用いて「なら学びの広場」にアクセスし、TVモニターに資料を投影したため表示が小さく見にくかった

4) まとめ（指導主事所見）

今回の研修は、学校の実状をふまえた課題の一つである若手教員の授業力向上をテーマに開催されました。課業日には、今回のように実技を取り入れた研修は時間の制約もあり実施しにくいですが、冬季休業中に設定することで実現できたものです。参加者は10名に満たなかったものの、教材研究や授業スキル向上に関わっては、授業時数の多い国語や算数に比べて後回しになってしまいがちな図画工作科において十分な研修時間を確保できたことは価値あることです。C教頭が当時の児童の取組の様子や授業の実践を語り、実技で受講者が児童になりきることで、研修内容の理解を深めるとともに、わくわく感とともに明日からの授業で実践してみようと意欲を高めることにつながったものと思われます。アンケートの若手教員のコメントにもあるように、実際の活動をとおして楽しみながら「知らなかったことを知ることができたこと」は、授業力向上のはじめの一歩であると考えられます。

3. 中学校での校内研修実践（京西中学校）

①学校の概要

・モデル校選定理由

校内研修日を設定し、今年度前半は人権教育を中心に研修を計画し、文部科学省指定研究を受けQ-Uを活用した学級分析に取り組んでいるため。

※Q-U：QUESTIONNAIRE—UTILITIES（楽しい学校生活を送るためのアンケート）

・研究モデル校プロフィール

校区の状況 薬師寺や唐招提寺などの歴史的景観とけ合った、恵まれた環境にあり、学習や部活動などに積極的に取り組んでいる生徒が多い。また、保護者や地域の方々には教育に対する関心が高く、京西中学校区として地域教育協議会の活動も活発である。

生徒数 全校生徒 540 名，18 学級（うち特別支援 3 学級）※平成 29 年 4 月現在

教員数 35 名，いわゆるミドルの教員が少なく若手とベテランで構成される。

・目標

教育目標 「自分の将来像を描くことができる生徒の育成」・親和話的学習集団づくり・正しい言葉遣い

めざす教師像 「自分の言葉で想いを伝えられる教師，共感的な受容の姿勢を持った教師，面倒見よく関わる姿の教師」

めざす生徒像 敬愛 お互いの良さを認め合える生徒

創造 自分の将来像が描ける生徒

自律 気づき，行動できる感性豊かな生徒

学校研修主題 「地域・保護者との連携」と「規範意識の定着と親和的学級集団育成」

・学校の課題認識

学力保障を図るため，教員の授業力・学級経営力・生徒指導での適切な対応力を培うとともに，特に課題を抱える生徒の保護者との関係を密にする必要がある。

ベテラン教員が持ち合わせている授業や生徒指導のノウハウを継承すること。いわゆるミドルリーダー世代の教員が極端に少なく，ベテラン教員と若手教員をつなぐ仕掛けをつくる必要がある。

・ミドルリーダーのプロフィール

英語科 D 教諭 経験年数 21 年。人権教育を担当。

体育科 E 教諭 経験年数 35 年。生徒指導を担当。

数学科・特別支援 F 教諭 経験年数 33 年。特別支援担当として，ユニバーサルデザインの授業を研究。

②校内研修の取組 [1 回目]

1) 実施の概要

・日時 平成 29 年 11 月 27 日 15：00～15：35

・場所 京西中学校

・研修担当 D 教諭（ファシリテーター）

・受講者 京西中学校有志 14 名

・テーマ 「学習する空間づくり」規範意識定着の基本は「あいさつと返事」である。（平成 29 年度グランドデザインより）

・設定理由 授業における基本的な指導スキルについては，各教員が自身の経験をもとに培ってきたものがある。今回の研修では，基本的な指導スキルを学ぶことや再認識することとともに，教員間で共有する必要性を感じていることから。

・成果指標 より効果的な学習空間をつくるためのスキルを身に付け，実際の授業に生かす。

・手法 Mラーニングの課題映像・解説映像の視聴とペアワーク，全体共有ら学びの広場から教材をダウンロードして使用

・教材 「なら学びの広場」・研修のひろば Mラーニング授業技術編「学習する空間づくり」

2) 研修の流れと様子

時間	内 容
15 : 00～	○ファシリテーターより研修意図・目的の説明
15 : 05～	○Mラーニングを活用したワークショップ × 3セット 〔・動画視聴 ・ペアワーク（課題共有・発表要旨に書き出し）〕 ・全体共有
15 : 35	○まとめ，アンケート記入



研修の意図・目的の説明



映像視聴の様子



ペアワークの後の全体共有

3) 当日のアンケート評価やコメント

業務での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	8	6	0	0	0	3.5

Mラーニング等の活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	5	8	1	0	0	3.3

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

コメントにあるように、受講者間で授業において「教員として大切にしていかなければならないこと」を確認できたという研修のねらいは概ね達成できたものと評価できます。

Mラーニング等の活用度についても、肯定的なコメントが多く、研修後の自己研鑽的な取組においても期待できる内容が読み取れます。

アンケートのコメントより

普段の授業を振り返る良い機会となった。
 自分の姿を想像しながらチェックができた。
 普段心掛けていることだったが実際にできているかどうか考えさせられる内容だった。
 挨拶や姿勢、指示の出し方等授業に活かせることが多く詰まった動画だった。
 研修後も自分のタイミングで動画を再確認できるのがよい。
 ※Mラーニングで2の評価を付けた教員のコメント
 ややデフォルメされていてわかりやすかったが現実味が薄かった

4) まとめ（指導主事所見）

アンケートの結果によると、14名の有志教員全員が、「本研修が、今後の業務に活用できるか」との設問に肯定的回答をしました。30分余りの短時間での実施ではありましたが、効果的な研修になったと考えます。昨年度も、このようなミニ研修を数回実施していましたが、Mラーニングを使用した研修は初めてでした。Mラーニングの効果については、「授業に生かせることが多くつまった動画であった」「分かりやすくまとめてあるので、ポイントがすぐに分かってうれしい」といった感想からも有効であったと考えられます。さらに、若手教員だけでなくベテラン教員の参加も得られたことで、ペアワーク等で交流でき、ベテラン教員と若手教員をつなぐ仕掛けの一つとなったことの意義は大きいです。

実際に号令や出欠確認等のロールプレイ等を実践し、相互評価をすることで、規範意識の定着の基本や学習する空間づくりの理解をより深めることができます。

③校内研修の取組 [2回目]

1) 実施の概要

- ・日時 平成 29 年 12 月 18 日 15 : 00～15 : 30
- ・場所 京西中学校
- ・研修担当 E 教諭 (ファシリテーター)
- ・受講者 京西中学校有志 13 名

・テーマ 「保護者対応」 保護者に生徒を安心して任せてもらえる学校づくりを目指す
 ・設定理由 京西中学校では、生徒に対して面倒見よく関わる教員の姿を、目指す教員像の一つとしてしています。また、生徒指導上の「問題」を教員と生徒の保護者との間で共有することを生徒指導の重点としていることからテーマを定めました。

- ・成果指標 生徒指導のポイントや手法を動画やファシリテーターの講話から学び、実際の生徒指導に生かす。
- ・手法 Mラーニングの課題映像・解説映像の視聴と講話
- ・教材 「なら学びの広場」研修のひろば Mラーニング保護者対応編「保護者対応の基本」

2) 研修の流れと様子

時間	内 容
15 : 00～	○ファシリテーターによる、当研修の目的、内容、流れの説明
15 : 05～	○Mラーニングにて保護者対応の課題映像と解説映像を視聴
15 : 20～	○保護者対応の留意点を講話、参考資料の配布
15 : 30～	○まとめ、アンケート記入



Mラーニングの映像を視聴



保護者対応のポイントを板書して留意点の講話



資料を配布して生徒指導の留意点を説明

3) 当日のアンケート評価やコメント

業務での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	4	9	0	0	0	3.3

Mラーニング等の活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	3	8	2	0	0	3.1

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
 2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

「電話などでの保護者対応の研修も多くはないので、良い機会になりました」等、アンケートより、研修のねらいは概ね達成できたものと評価できます。

アンケートのコメントより

若手教員

- ・私自身教師 1 年目であまり保護者対応をしたことがないのでこれからいかしていきたいと思った。
- ・再任用であり、今後どうなるかわからない中、それでも今までの確認をしながら見ておりました。
- ・キーワードとなる言葉がいくつもあり、すぐに実践できると思います。

ベテラン教員

- ・保護者との関わりで基本的な姿勢と悪い例が簡潔にまとめられていた。
- ・これまでの取組の確認ができた。日常していることの確認になった。
- ・Mラーニングの中身は基本的なものであったためわかりやすかったが、もっと深い対応の動画があっても良いと思った。対応例をそのまま実践することは大変だが、このような事例もあるということ参考にしたい。
- ・資料での三者懇談のヒントをいかしていきたいと思います。
- ・今日参加されなかった経験年数が少ない方に受けて欲しい研修内容でした。
- ・学びの広場も活用していくきっかけにしたいと思います。校内で行うので、時間も取らず大事なところだけおさえていて良いと思います。

4) まとめ（指導主事所見）

保護者とのスムーズな連携は、生徒指導上必要不可欠なファクターです。学校の実態に即し、若手教員を中心に本研修を実施できたことの意義は大きいです。Mラーニングの内容については、若手教員には効果的でしたが、一定の経験がある教員にとっては少し物足りなさもあったようでした。ファシリテーターの講話は、長年のご自身の経験から語られるものであり、説得力のあるものでした。一方、教員同士が意見交流したり議論したりする時間がなく、ワンウェイの研修になってしまったことには課題が残ります。

研修の目的や流れが最初に示されないまま、課題映像と解説映像を視聴する形で進行したため、受講者の主体的な取組が引き出せませんでした。最後に「子育て四訓」を引用して研修のまとめとしましたが、やはり全体の流れが見通せる形での紹介が効果的であったように思われました。研修後に、研修担当の先生にどのような研修を行いたかったのかをヒアリングした際に、「世代間のギャップを埋めるような機会としたかった」ことがわかりました。そのことを冒頭に示した上で、研修担当の先生の経験を活かした講話をすると共に、校内での実例について意見交換やロールプレイを取り入れて実践し、振り返り省察することでより学びを深めることができる研修となります。

④校内研修の取組 [3回目]

1) 実施の概要

- ・日時 平成30年2月19日 15:45～16:40
- ・場所 京西中学校
- ・研修担当 F教諭（ファシリテーター）
- ・受講者 京西中学校有志9名 六条小学校3名 伏見南小学校3名
- ・テーマ 「ユニバーサルデザイン～分かりやすい授業づくり～」親和的学級集団育成は「深い学び」につながる（平成29年度グランドデザインより）
- ・設定理由 第3回目となる研修は、京西中学校区単位での実施を計画し、六条小学校と伏見南小学校の教員の参加を促しました。小中教員の合同実施となることから、研修テーマを「ユニバーサルデザイン」とし、教科の内容や専門的な部分ではなく、日頃の授業での工夫について交流することが適切と考えました。
- ・成果指標 ユニバーサルデザインの視点で授業をはじめとする教育活動を見直し、今後の指導に取り入れる。
- ・手法 Mラーニング視聴(導入)、小中教員合同のグループワーク、ファシリテーター講話
- ・教材 「なら学びの広場」 Mラーニング 第4講座「やる気を引き出す」

2) 研修の流れと様子

研修の目的と流れについて確認をした後で、Mラーニング第4講座「やる気を引き出す」より「やる気を維持する」の事例映像を研修の導入として活用しました。また、小中の教員を含む4つのグループを作り、日々の授業での実践の工夫を紹介し合いながら、新たな視点を持つたり考えを深めたりしました。「学習環境の工夫」「授業展開工夫」2回に分けて考えを整理し、発表用紙にまとめて黒板に掲出し、受講者全体で共有を図り、F教諭が講評を行いました。「分かりやすい授業づくり」にユニバーサルデザインの考え方を活用すると「児童生徒一人一人に分かりやすい授業づくり」につながることを、研修のまとめとしました。

時間	内 容
15:45～	○ファシリテーターより研修の目的・意図の説明
15:50～	○Mラーニング視聴 第4講座「やる気を維持する」
15:55～	○学習環境の工夫についてグループ交流 <ul style="list-style-type: none"> ・小中教員混合で意見交換・共有 ・発表要旨に書き出し ・発表による全体共有
16:05～	○授業の中での工夫についてグループ交流 <ul style="list-style-type: none"> ・小中教員混合で意見交換・共有 ・発表要旨に書き出し ・発表による全体共有
16:15～	○ユニバーサルデザインの授業のポイントとまとめ
16:25～	○早稲田アカデミー牛嶋より研修の振り返り・協議



Mラーニングの動画を視聴して研修の導入



持ち寄ったワークシートをもとにグループワーク



協議内容の全体共有 ファシリテーターの講評



ファシリテーターによる講話とまとめ

3) 当日のアンケート評価やコメント

研修後に振り返り省察し、協議会の時間も持つことで、明日からの実践・検証で活かしていくための具体的なイメージを受講者が持ち帰ることができたようでした。アンケートやコメント内容、研修の振り返り・協議会における受講者からの意見や感想の発表内容から、研修のねらいは概ね達成できたものと評価できます。

業務での活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	3	6	0	0	0	3.3
六条小	0	3	0	0	0	3
伏見南小	3	0	0	0	0	4
計	6	9	0	0	0	3.4

Mラーニング等の活用度

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	2	2	3	0	2	2.9
六条小	1	1	1	0	0	3
伏見南小	2	1	0	0	0	3.5
計	5	4	4	0	2	3.1

「なら学びの広場」を活用した、ミドルやベテラン教員がファシリテーターとなり、意欲のある教員が集まって実施する研修は効果的であると思われましたか。

単位:人	4	3	2	1	無記入	平均
京西中	2	4	1	1	1	2.9
六条小	0	1	1	1	0	2
伏見南小	3	0	0	0	0	4
計	5	5	2	2	1	2.9

4…とてもあてはまる 3…あてはまる
 2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない

※京西中の一部無回答は、校務との兼ね合いで研修に途中参加のため

※n=15・平均はn=14で算出

アンケートのコメントより

- ・ユニバーサルデザインの具体例を学び合うこともできたから。
 - ・実践活動の交流。(普段はなかなかこうした機会がつかれない。)
 - ・教室環境の変化について、迷っていることがありました。今回の資料を見せていただいて、そのヒントを得ることができました。
 - ・各学校の取組について交流ができたので、今後クラスや学校でも活用させていただこうと思う。
 - ・特に若い先生が学習環境を整えたり授業展開を考えたりするのに、大きなヒントとなると思われる。
 - ・小学校の先生とも交流ができ様々なやり方があると実感した。
 - ・中学校の先生の考え方を知ることができた。
 - ・自分が悩んでいることについて、取り組んでいる実践があり参考になった。(めあて、ふり返し)
 - ・写真付きの資料で分かりやすく、小学校の丁寧さがわかり、中学校でも活かそうと思いました。
 - ・すぐに使えるものもあったが、学校、校種によっては難しいと感じた。まだ資料をきちんと読んでいないので3にしました。資料は事前にいただければと思います。
 - ・学級掲示1つをとっても様々な工夫の仕方があることに改めて気づきました。細やかな配慮が必要な場面で、共通してできること、個々にできることをもっと考えていこうと思いました。
 - ・他の実践に学ぶべきところが大いにあった。
- ※M ラーニング等の活用度で2と評価したコメント
- ・動画と今日の研修が直接的な関係が感じられなかった。いつも講師(指導主事)の先生も似たような研修をしているのでそれとの違いが感じられなかった。
 - ・今回はあまり活用されていなかった。(小学校教員)
 - ・動画と研修内容が直結していないことも考えられるため。すべての研修に活用する必要性はあるのか。動画の内容が現場の状況にあまり適応していないように感じる。(中学校教員)
- ※今回のような研修は効果的か、の問いに2, 1と評価したコメント
- ・忙しい時期で深まりのある研修とは思えなかった。
 - ・参加する年齢層に偏りがあるため。
 - ・時間の確保に無理がある。(中学校教員)

4) 研修のまとめ

本日の学びの振り返り・協議を行い、校内研修の在り方を考える機会を持ちました。学習環境の工夫、授業展開の工夫についての事前課題(ワークシート)を持ち寄り、小中混合の班で交流することで、小中連携、それぞれの指導の良さを共有することで深い学びの得られる研修となりました。その結果、ICT(クラウド)環境の活用による校内研修の充実について、積極的な意見が多数あがったことから、活用の可能性が高いと推察をしています。以下、意見や感想の発表内容より抜粋紹介いたします。

・研修を受講した小学校の先生

校内研修が短くコンパクトにまとまっていた。先生方の取組を聞くことから、先生方の考えが見える良い機会だった。大きな研修になると、時間的な制約や学校を半日や1日離れる負荷があり参加しづらいが、近隣の小中校区で集まって1時間くらいの研修だと、参加しやすいと感じた。京西中でのミニ研修のように、自分の所属する学校でも広げていきたい。

・研修を受講した中学校の先生(京西中学校1回目の研修を担当)

モバイルラーニングの映像は、視覚的にわかりやすいと思う。もっと見たいと感じた。小中が合同で自主研修をやると、小学校の先生から学ぶべきところが多くあると実感する。中学校は遅れていると感じていて、小学校の先生が行っている実例、仕掛けはとても参考になる。自主研修なので、研修の参加は強制できない。参加している教員はモチベーションが高く、学ぼうという意欲があると思う。自主研修を受けに来ない人こそ、受けてほしいので、その仕掛けを今後作っていききたい。例えば、職員会議の後、モバイルラーニングの1テーマを皆で見て意見交換する等、学校全体で教員の学ぶ機会を増やし、意欲を高めていきたい。

・研修実施者

小中合同で研修テーマを設定する際にモバイルラーニングを参考にして『分かりやすい授業づくり』としました。初任者向けの教材ということでしたが、教員を30年以上経験した私自身が見ても新鮮で気づかされることが多くありました。特別支援教育に関するユニバーサルデザインの

考え方と、自身の経験から、受講者が事前準備してきたワークシートで協議・共有したことにコメントできたこと、また、早稲田アカデミーの先生が研修内容や受講者の発表内容を整理して、振り返りと省察、協議が行えたことはとても意義深いものでした。こういう機会をこれからも継続的に設けていきたいと思えます。

・担当指導主事の所見

3回目となる今回の研修は、受講の枠を京西中学校区の小学校教員にも広げて実施しました。本市では小中一貫教育を実施しており、各中学校区において小中一貫した教育目標を設定し9年間のスパンでの連続した教育に取り組んでいます。今回の研修のテーマを「ユニバーサルデザイン」としたことで、「児童生徒の分かりやすさ・意欲の持続」をキーワードに小中の教員が活発に交流できました。ファシリテーターのプレゼン資料も分かりやすく、充実した研修となりました。ファシリテーターが、今回の研修の意図や目的を明確に理解した上でプランニングしたことが、効果的な研修につながったと考えます。

(3) 成果と課題

1. 成果

若手教員の増加、法改正に伴う中堅研の変化と対応、未来を見据えたミドルリーダーの育成といった喫緊の課題に対して、研修の「企画立案・実施・評価」の一連のサイクルを「研修開発プロセス」として定め、教育委員会が学校（ミドルリーダー等）を支援する形で、研修を実施することができました。

- ・学校の教育課題を解決すべく、めざす教師像、めざす児童生徒像を追究していく中で、ミドルリーダーが中心となって「ミニ研修」を企画立案し、実施、評価する取組は、「ミドルリーダーの成長」につながりました。
- ・回を重ねるごとに、「組織的な学習や小中連携の取組が促進されていく過程」が見られました。組織的な学習として、ベテラン教諭や中堅教諭が各々にもっている「暗黙知」の「形式知化」が進み、「共通言語」による世代間ギャップの解消や若手教員と中堅ベテラン教員の交流の深まりにもつながりました。
- ・モデル校となった小中学校での実践事例をまとめた映像を制作することで、事例が可視化され、今後同様の研修をミドルリーダーが中心となって他校でも行い、広げていくための参考資料を提供することができました。

2. 課題

- ・既に予定されている年間校内研修計画に追加する形となったため、日程調整が困難でした。
- ・研修日当日に入る急な対応等により、途中参加や欠席する教員がいました。
- ・研修の進め方については、実際にミニ研修を実施していく中で、ファシリテーター自身が課題意識をもたれることがありました。受講者に負荷をかけることなく、また学びを深めるためには、事前の準備やその活用方法、協議の進め方などについて事例があると良かった、という声もありました。

Ⅲ 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

(1) 実施概要

1. 取組の概略

本事業においては、中堅教諭等資質向上研修の受講対象者（4年次～11年次）に必要とされる学校運営の中間管理における資質能力や教科指導における専門的なスキルを高めるためのコンテンツ開発を行いました。

そして中堅教諭等資質向上研修のプログラムの中で、事前学習・振り返り用教材に活用できるものとするため、学校現場でニーズの高い、小学校理科、小学校体育を題材に、指導主事との連携の下、実際に中堅教諭等資質向上研修を担当している講師の協力・監修を受け、制作を進めました。

合わせて中堅教諭等資質向上研修の効率的・弾力的な受講を実現するために、当該教材を「なら学びの広場」にアップロードし、ICTを活用した研修プログラムとして受講できる体制を整えることで、多忙感や負担に配慮しながら、対面・集合研修と同等の研修効果が得られるよう留意しました。中堅教諭として身に付けておきたい教科指導スキル等の習得と向上と共に、学校運営上必要とされる中間管理における資質能力等の向上を図る研修プログラムとなるよう、実施形態や修了要件について検討を重ね、本事業で開発したプログラムについては次年度以降の奈良市で行われる中堅教諭等資質向上研修の一部で運用し、効果検証を進める予定となっています。

2. 奈良市の中堅教諭等資質向上研修の構造

中堅教諭資質向上研修への理解を深めるため、まずは協働連携先である奈良市での中堅教諭等資質向上研修の構造を学びました。研修の構造は以下の通りです。

①平成 29 年度実施研修の概要

教育公務員特例法第 24 条の改正により、「10 年経験者研修」を「中堅教諭等資質向上研修」に改め、実施時期の弾力化を図るとともに、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図るための研修としました。

平成 30 年 3 月 31 日現在で教諭としての在職期間が 4 年から 11 年に達した教員を対象に行う研修です。在職期間によって 3 つの期間に分けて、それぞれキャリアに応じた内容の研修を段階的、弾力的に受講できるようになりました。その 3 つの期間内に、主に奈良市教育センターで実施する研修を受講していただくことにしました。

②研修の変更点

従来実施してきた 10 年経験者研修から新たに中堅教諭等資質向上研修となり、対象者や受講の仕組が大きく変わりました。

対象者は平成 30 年 3 月 31 日現在で教諭としての在職期間が 4 年目から 11 年目の教諭、10 年経験者研修対象者のうち未受講の教諭となり、600 人弱が対象者となりました。その中で、産育休や海外派遣等の理由で受講できない教諭を除き、400 名余りが該当者となりました。また、4～7 年目をⅠ期、8～10 年目をⅡ期、11 年目以上をⅢ期とし、各期に応じて、受講すべき講座や講座数を決めました。

Ⅰ期では教科指導を中心に構成された教科等指導研修から 6 講座分、Ⅱ期では今日的課題を中心に構成された共通研修Ⅱと教科等指導研修から 14 講座、Ⅲ期では中堅教諭として学校に参画すべく必要な資質を養うために構成された共通研修Ⅰから 4 講座受講することとし、合計 24 講座分を受講することとしました。また、Ⅲ期では校内研修を 13 日実施することになりました。

○教科等指導研修講座

国語科教育研修講座（小）、算数科教育研修講座（小）、数学科教育研修講座（中）、外国語科教育研修講座（小）、外国語科教育研修講座（中）、理科教育研修講座（小）、理科教育研修講座（中）、美術科教育研修講座（中）、道徳教育研修講座、アクティブ・ラーニング研修講座、学び深める世界遺産学習、ICT教育研修講座（2）（プログラミング教育）、本物に触れる世界遺産学習（1）、本物に触れる世界遺産学習（2）、教科指導を通じた学級づくり

○共通研修Ⅰ

教育相談のスキルアップ、教育コーチング研修講座、人権教育研修講座、今求められる職業人として資質（キャリア教育研修講座）、授業における効果的なICT活用研修講座、効果的なOJT研修講座、特別支援教育の実際、ICT教育研修講座（1）（次期学習指導要領を見据えた教育の情報化に向けて）、校内研究研修講座、教職員のためのストレスマネジメント入門講座、ICT教育研修講座（3）（情報スキル）

○共通研修Ⅱ

中堅教員としての学校運営参画（1）、中堅教員としての学校運営参画（2）、中堅教員としての学校運営参画（3）、チームマネジメント研修講座

③課題

新たに実施した中堅教諭等資質向上研修ですが、平成29年度から平成35年度まで移行期に当たるため、本格実施となるのは平成29年度に4年目の教諭となりました。そのため、それぞれの在職期間によって受講すべき講座や仕組に違いがあり、複雑な研修体系となってしまいました。中でも、喫緊の課題として、次の2つの課題が生じました。

1) 対象者の激増により、各講座の定員が対象者数に応じられない

従来の10年経験者研修では、近年30名程度の該当者で、採用数の多い年の教諭が対象者となっても実際の受講該当者は80名程度の予定でした。しかし、中堅教諭等資質向上研修では、在職期間4～11年目の教諭が対象になることで、今までの約8倍の対象者が見込まれることとなりました。

講座数や1つの講座の定員は、講座内容や研修室の容量の問題等、様々な要因によって限りがあります。その定量を超える数の該当者が受講申込に殺到することとなりました。結果、申込総数の1割程度の受講受け入れとなりました。

2) 対象者の経験値が異なることにより、受講者全体のニーズに合わせにくい

対象者が採用後の在職期間（教諭としての経験年数）で規定されるため、対象者の経験年数が8年に渡ることとなりました。Ⅰ～Ⅲ期に分け、受講講座も対象者を明確にして行えるように計画されておりますが、平成29年度は移行期であることに加え、中堅教諭等資質向上研修スタートの年ということもあり、経験年数に8年の違いをもった教諭が同じ講座を受講することとなりました。

経験年数が4年目の教諭と11年目の教諭では、経験値の違いから、スキル、視点、環境（担当責務）などによってニーズに差異が生じます。そのような状況で講座内容は、一方に重点を置けば他方が手薄になり、結果的に受講者の満足度が低く、研修の成果も効果的とは言い難いものになると予想されました。

これらの課題を解決するために、すでに初任者研修で活用していたMラーニングに着目しました。奈良市では、教職員のみが活用できるクラウド環境「なら学びの広場」を運営していま

す。平成 28 年度から初任者研修の一環として、「なら学びの広場」内の動画を視聴し、レポートを提出する仕組みを設けています。同じように、中堅教諭等資質向上研修でも「なら学びの広場」を活用し、講座の 1 つとして運営できる仕組みを構築することとしました。そうすることで、受講定員の制限がない講座を設けて多くの受講者の受講を可能にし、活用の仕方によってそれぞれの教員のニーズに合わせることをねらいました。

その仕組みの核として、講座内容に合った動画を制作することとしました。

(2) 具体的な取組

1. 取組の概要

7 月までをかけて、中堅教諭等資質向上研修に関する本質的な理解と、中堅教諭に求められる力量を学び、コンテンツ化する対象や講座の設計を検討しました。

7 月には中堅教諭等資質向上講座の一つ「知的好奇心をはぐくむ理科活動」を視察し、プログラムへの理解を深めました。

8～12 月をかけ、パイロット版の制作に取り組みました。映像の構成や研修課題の設定など、映像だけでなく、研修効果を高めるための工夫を協議検討しました。

12 月に山本特任教授にパイロット版を見た上でのプログラムの監修、指導をいただきました。

1 月から 2 月にかけて指導をふまえて映像構成を再構築し、再度監修をいただきました。

パイロット版の構成を基に、他のコンテンツ制作に取り組みました。

次年度以降は、奈良市の中堅教諭等資質向上研修の一コンテンツとして活用してまいります。

2. 中堅教諭等資質向上研修への理解

コンテンツ開発に先立ち、研修の体系的な理解と中堅教諭に求められる資質能力など、以下の知識習得を図りました。

- ①法改正の背景、研修の構造、課題
- ②奈良市の中堅教諭等資質向上研修の方針および施策

3. 中堅教諭等資質向上研修の視察

研修で求められている力量形成を学んだ後、コンテンツ開発と活用モデルについて奈良市と協議検討を重ね、7 月には実際の研修の一部を視察しました。

①概要

日時 平成 29 年 7 月 28 日 13 : 15～16 : 15
対象 小学校教諭 (40 名)
会場 奈良市教育センター
講師 奈良教育大学特任教授 山本 吉延先生

②研修内容

講義 教員に求められる理科的教養・学習指導要領の改訂の概要とこれからの理科教育
演習 1 輪ゴムの特性を調べよう。
演習 2 ゴムで動く車を作り、授業を想定して実験し、データをグラフ化して検証しよう。
演習 3 ペットボトルなど身近な素材を教材として生かそう
質疑応答

4. コンテンツの検討・学識者による指導

①コンテンツ・活用方法の検討

研修で求められる力量をどのようにコンテンツ化して身に付けるか、研修効果に力点を置き協議を重ねました。視察を行った研修講座は受講者の人気が高いものの、教室環境等の関係で多くの受講者を受け入れられないこと、また小学校教諭の理科的な指導について教科専門的な力量形成が求められていること、受講対象となる教諭の数が大きいこと等から、教科専門性の資質向上を目的として、視察した講座の内容（小3理科・風とゴムのはたらき）を基にパイロット版のコンテンツとして制作することを決めました。

当初、視察した研修内容をダイジェスト版映像としてまとめ、制作することを検討していました。しかし、教科専門性を高め、指導技術を向上させることを目的とした場合、映像を見ることに終始するのではなく、映像内容をふまえ自らで指導方法を考え授業ができるようになることが必要という考えに至りました。

そこで、当社の映像を活用した研修ノウハウを活かし、映像の中に問いを立て、全ての解説はしないことで、答えを自らで考える仕掛けをつくりました。下のキャプション図は弊社の映像コンテンツの一部です。映像内で問いを発して、児童生徒の思考を促すことをねらいとしたものです。

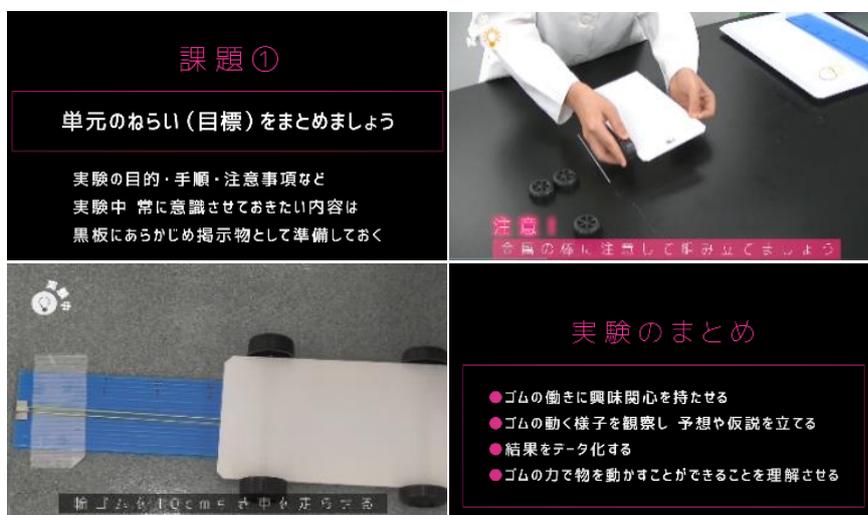


当社学習用映像の一部

②パイロット版映像の制作

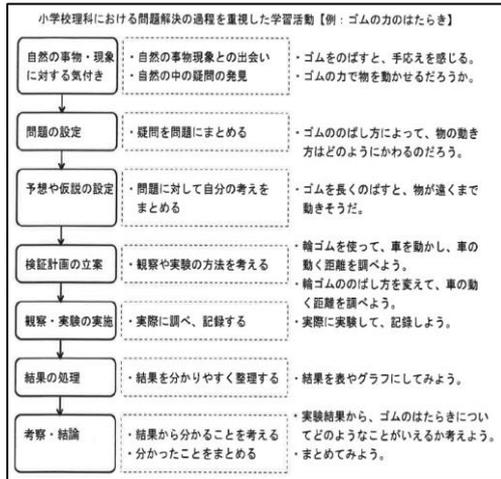
研修で自ら学び、身に付けることを第一義とした場合、映像視聴を題材として自ら考える機会とするために、映像での問いとレポートをセットにして受講すること、映像視聴後に、実際に実践することが必要性を感じ、実験の様子とレポートの作成をメインにコンテンツの制作を進めました。

実験の手法が映像化され、受講者が実験イメージをもて、実際に実験ができるように制作をしました。



制作した映像（パイロット版）の一部

③学識者による指導



小学校理科における問題解決の過程を重視した学習活動（山本特任教授より）

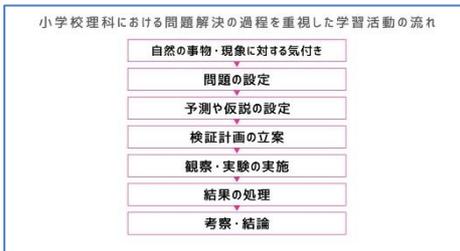
パイロット版制作後、実際に中堅教諭等資質向上研修で小学校理科の講座を担当された山本特任教授にコンテンツを確認いただきました。その際、学習指導要領に立ち戻り、実験に終始しない、課題解決型の理科学習の在り方が重要であり、そのことを理解し実践できるようになることが、教員に求めたい力であることをご指導いただきました。

特に、小学校理科において、理科の教科専門性を高めるためには、映像を通じて課題解決を重視した理科学習の本質的な理解を受講者に促し、授業について改めて考える契機になる構成にすることが望ましい、とご教示いただきました。

5. 学識者による再指導・その他コンテンツの制作

①映像構成の見直し・再検討

山本特任教授からの監修をふまえ、学習指導要領を総則とした問題解決の過程を重視した映像構成、実験の仮説と検証を強調するコンテンツの見せ方を協議検討しました。試行錯誤を繰り返しながら、課題解決型学習になるよう、学習指導要領に立ち戻り教科書、参考書類を参考に「どう伝えるか」「どのように構成したら中堅教諭の資質が向上できるか」という点に焦点化し、協働して映像の再構築に取り組みました。



小学校理科における問題解決の過程を重視した学習活動の流れ（理科共通）

山本特任教授が強調された、実験に終始せず、実験前の予想や、ねらいにせまる実験手法、集約分析に受講者の意識が向くような学習をねらいとして、実験中心だったパイロット版映像に、学習活動の流れを総則として作成し、意図をナレーションで捕捉し、理科共通として映像の最初に載せました。次項に修正前のコンテと修正後のコンテの一部を掲載しています。全体像や授業実施の際の留意点やポイントが加わり、構造的な理解を促すつくりになっています。下図は監修をふまえ修正したパイロット版映像の一部です。

小学校3年生

目標

身近な自然の事物・現象を比較しながら調べる

実験

風やゴムの働き

予測・仮説のポイント

輪ゴムの伸び、本数の違いで結果がどのように変化するか

児童への問いかけの例

① 「風の強さを変えると、物の動き方はどのように変わるかな？」

② 「ゴムの伸ばし方を変えると、物の動き方はどのように変わるかな？」

修正した映像（パイロット版）の一部

修正した映像（パイロット版）の一部

実験のまとめと考察

- ゴムの働きに興味関心を持たせる
- ゴムの動く様子を観察し 予測や仮説を立てる
- ゴムの力で物を動かすことができることを理解させる

参考 パイロット版制作の変容の履歴

図3 パイロット版コンテ（初稿）

1-1 タイトル (扉)	メインタイトル(表紙)表示	タイトル 小学校理科「知的好奇心や探究心を育てる理科の授業づくり」 -講師- 奈良教育大学教職大学院 特任教授 山本吉延
2-1	イメージ図表示 2種類の実験静止面のイメージとテロップ表示  ①00070.MTS 12秒あたり ②00008.MTS 29秒あたり	(SE) テロップ [ゴムの伸びと車の走った距離] [CDを使ったホバークラフト]
2-2	イメージ図表示 児童がおもちゃを使って実験しているイラスト ①ゴムで動く車 2.jpg	(SE) ナレーション 「風で動くおもちゃ」や「ゴムで動くおもちゃ」をつくる活動を通して、風力やゴムの伸びとおもちゃの動く距離の関係などについて考えられるよう指導しましょう。
2-3	テキスト表示 課題① 単元のねらい(目標)をまとめよう ※黒背景に白文字	(SE) ナレーション 児童が、「自らの生活経験や学習経験」を基にしながら、問題の解決を図るための見直しをもてるように指導しましょう。 ・実験の目的や手順、注意事項など実験中に常に児童に意識させておきたい内容は、黒板にあらかじめ掲示物として準備しておくとういでしょう。
2-4	映像にタイトル表示  ①00066.MTS	(SE) タイトル ゴムの伸びと車の走った距離
2-5	テキスト表示 課題② どのような器具を準備しますか ※黒背景に白文字	(SE) ナレーション 何をどのように測定させるかを考え、必要な準備を行います
2-6	テキスト表示 課題③ 実験の留意点は何ですか ※黒背景に白文字	(SE) ナレーション 1人で実験できない場合は、ペアやグループで実験を行います。そのとき、各自の役割や順番などのようにすればよいが考えさせましょう。 また、児童が考えやすいように記録方法を工夫しましょう。 ・実験を行うときは、児童一人一人が目的をしっかり持って取り組むことが大切です。今回は、動くおもちゃを使って、その動きの特徴を捉えることができればよいでしょう。まずは、興味を持つこと、次にその動きの特徴に気づく視点をもたせることができれば、日常生活の中でも様々な科学的な視点を持って物事を見ることができるようになります。
3-1	映像(車が走っている映像) ①00066.MTS	(SE) ナレーション それでは実験を見てみましょう
3-2	映像(準備物紹介)  ①00063.MTS ②00009.MTS	(BGM) ナレーション 今回は、プラスチック段ボールと市販のタイヤを用いて車をつくります。また、測定しやすいように発射台もつくります。
3-3	映像(組み立て)  ①00064.MTS ②00010.MTS	(BGM) テロップ 児童に組立させる場合、組立手順を图示しておきましょう。 【注意!】金属の棒に注意して組み立てましょう ナレーション 土台からはみださないような位置にタイヤをつけましょう。タイヤをつけた後に、軽く手で動かさず確認しましょう。
3-4	映像 	(BGM) テロップ 発射台にもりがあることでゴムの伸びが分かりやすくなります。 ナレーション めもり付きの発射台を作成します。

実験の様子

図4 パイロット版コンテ（修正稿）

1-1 タイトル (扉)	メインタイトル(表紙)表示	小学校理科「知的好奇心や探究心を育てる理科の授業づくり」 -講師- 奈良教育大学教職大学院 特任教授 山本吉延
1-2	文字表示 学習指導要領の目標(学年共通) 文部科学省 学習指導要領より	NA 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを旨とします。
2-1	画面表示 小学校理科に おける 問題解決の過程を重視した学習活動の流れ(学年)	NA 小学校理科では、自然の事物・現象に対する気づきから問題の設定を行い、予測や仮説を立て、それらを検証する計画を立案します。そして観察や実験を通して検証し、結果をわかりやすくまとめていきます。結果からわかったことを考察し、まとめましょう。あらかじめ実験を通して児童にどのように気づきを与えるのか、示し方や発問の仕方などを考えましょう。大切なことは、実験をすることだけに終始せず、実験を通して、自然に対する興味・関心、現象への理解を高め、学ぶ意欲や科学への関心を高めることにつなげることです。
3-1	画面表示 各学年の目標	小学校3年生 身近な自然の事物・現象を比較しながら調べる
3-2	画面表示 各学年の実験	小学校3年生 風やゴムの働き
3-3	画面表示 単元の目的	NA 風とゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目し、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導しましょう ①風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを 変えると、物が動く様子も変わる。また、ゴムの力の大きさを 変えると、物が動く様子も変わる。そして、風とゴムの力で物が動く様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、風とゴムの力の働きについての問題を見だし、表現することができるように指導しましょう。
3-4	画面表示 実験の内容(個別)	NA 今回は、「ほ」をつけた車のはたらき、ゴムの伸びと車の走った距離の実験をおこないます
3-4	画面表示 留意点(個別)	NA 単元における学習観点を追加 観察・実験では、予想や仮説を立てさせることが重要です。児童の既知の知識や経験によって、差があるため、個人の考えを持って、2、3名のグループで意見を出しあわせて、共有する場を作りましょう。 より早く、より早くなどの現象に注目し、競争になりがちですが、実験の手順を説明する際、輪ゴムの伸びや本数などの違いによって結果がどのようであったか、その差異と共通点に注目できるよう、黒板などに目標を示しておきましょう。
5-1	画面表示 実験①(個別)	NA 実験の様子 実験:ゴムの伸びと車の走った距離
5-2	画面表示 実験②(個別)	NA 児童への問いかけの例 ①ゴムの伸ばし方を変えたら、車の動きはどのように変わりますか

全体的な理科的学習観点を追加

実験の様子

②学識者による再確認・再指導，教育センター指導主事による確認

山本特任教授に再度，教科専門性を高める観点から監修をいただき，課題解決型学習の仕組みや内容をふまえて修正し，教科書で扱う学習範囲を超えていること，小学校3年生時点の場合の実験の代替案につきましてご意見をいただきました。あわせて奈良市教育センター指導主事も確認を行い，中堅教諭等資質向上研修で活用できるか，という観点からコメントを集約しました。

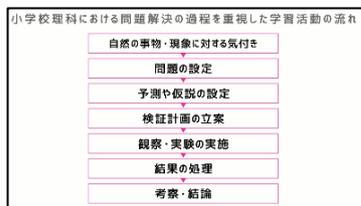
コンテンツを確認した指導主事の声

- ・中堅教員向けということだが，初任者にも使用して学ぶことができる。
- ・ゴムの実験では，ゴムの本数や太さを変える，ねじってみるなど発展的にやってみても面白い。
- ・説明が早口なところがあった。
- ・初任者向けには，黒板の板書例，目標例などを示しておくとうい。また，実験を行う場所の図等があればさらにわかりやすい。
- ・ICTを使う等，機器を使った実験例を示すことで，自分でもやってみたいと思えるのではないだろうか。
- ・風の実験では発展的な帆の大きさ，時間を測定するなど教科書の範囲を超えている所がある。

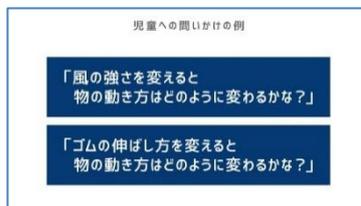
制作したコンテンツの意見は肯定的なものが多く，中堅教諭等資質向上研修として有用であるという感触を得ました。映像には教科書の範囲を超えた内容もあったため，山本特任教授と同様指摘が上がりました。教科書の範囲を中心とし，説明やキーワードの表示等には十分に間を取って，印象に残るように調整をすること等の映像修正を実施しました。受講者の視点に立った配慮の重要性を改めて感じました。

③制作したコンテンツ

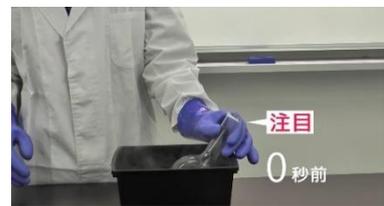
パイロット版で制作した構成を基に，小4理科・小5理科・小6理科・小学校体育のコンテンツの制作を行いました。



理科共通 課題解決の過程を重視した学習活動の流れ



小3理科 風とゴムの働き



小4理科 金属，水，空気と温



小5理科 ものの溶け方



小6理科 理科室の使い方



小学校体育 子どもの安全に配慮した授業づくり



オリエンテーション

あわせて，コンテンツの活用方法の周知を図るためオリエンテーション映像も制作しました。コンテンツをどのように活用してほしいのかを提示することで，活用促進を促す仕掛けをつくりました。

6. 奈良市の中堅教諭等資質向上研修への組み込み方・考え方

奈良市では、今年度の施策の課題解決のため、平成 30 年度は、自己啓発研修として、教諭としての在職が 8 年以上の当該教諭が原則 11 年目を終えるまでに、1 年間で受講・履修する研修として、4 つのコースを設定しており、教員がそれぞれの特性や状況に合わせて選択できるようになっています。

①校内・自主研修 ②教科等研究会研修 ③教科等課題研修 ④社会体験研修

これらのうち、①「校内・自主研修」、②「教科等研究会研修」、③「教科等課題研修」においてモバイルラーニングの活用を想定しています。

それぞれの研修においてモバイルラーニングのコンテンツを参考に自主的研修として、テーマを設定し、教員が研修を行い、報告書（レポート等）を成果物として学校長に提出します。

①「校内・自主研修」では、校長の指導の下で、実践等を通じた授業研究や教材研究を校内研修として 1 年間実施し、成果を論文等としてまとめ、校長を通じて奈良市教育センターに提出します。また、年間研修計画、実績報告等の書類を提出するとともに、その研究のために必要な研修を適宜実施していただきます。

②「教科等研究会研修」では、指定された教科等研究会等において、1 年間継続的に実践的な活動を行い、教科等研究会での活動成果として、奈良市教育センターに報告書（レポート等）を提出します。

③「教科等課題研修」では、奈良市教育センターで実施するスキルアップ研修講座から 5 講座以上を受講し、報告書（レポート等）を提出します。特に、小学校教諭は「なら学びの広場」にあるコンテンツを活用したモバイルラーニングによる理科教育研修（1 講座）を必ず受講するよう設定しています。

このように、教員が、自主的自発的な研修がさらに深まるよう、モバイルラーニングを活用し、研修を進めてもらいたいと考えています。特に今回作成した理科や体育のコンテンツについては、事故やけがの多い単元の指導のポイントとして、参考にし、安全かつ適切に指導できるよう心掛けていただきたいと思います。

また、コンテンツは教員の自己啓発研修を目的として作成していますので、教員がこのコンテンツをきっかけにさらに工夫改善した指導方法の研究開発や映像などの作成等にも取り組み、その成果を校内研修や教科等研究会等でも活用し、発展的充実に取り組んでいただきたいと思います。

授業での活用に当たっては、新しい学習指導要領の考え方を取り入れ、児童にとって「主体的・対話的で深い学び」となるよう例示の示し方や発問等の言葉かけ、児童一人一人の学習の中での変容の見取など教員自身の良さや児童の状況を適切に把握し、アレンジして活用することが大切です。

そのためにも、まずは、教員自身が学習内容に興味関心をもち、事前に自らが体験することで教材の指導ポイントもより明確化していきます。また、指導に当たって、事前準備や前提となる条件や理論についても教材研究を行っておくことが必要となります。

平成 30 年度「中堅教諭等資質向上研修」のうち、「教科指導や児童生徒理解の指導力向上」における「自己啓発研修」の 1 講座として実施予定

《研修の流れ》

映像学習⇒レポート①作成⇒予備実験⇒レポート②作成⇒レポート提出

《期待される効果》

中堅教員として身に付けておきたい教科専門性や指導スキル等の向上と共に、学校運営の中核となって教科会や授業研究等を校内で主体的に推進していけるようになること。

- 1.研修機会創出…限られた研修機会を、必要とする全ての教員のために設けることができる
- 2.コンテンツ開発…学校現場のニーズに応える教科指導に役立つ映像やコンテンツの制作が進む
- 3.時間的拘束の軽減…学校現場を離れることなく、効果的・効率的な研修機会とすることができる

(3) 成果と課題

教員の多忙感に配慮しつつ負荷軽減を図るため、ニーズの高い教科指導力向上のための講座の映像コンテンツ化と活用モデルを検討し、構築することができました。そして、次年度の教職員全体研修構想の策定をする中で、具体的に実施するための周辺ツールも開発しました。

監修に入った学識者の指導を踏まえ、奈良市と当社で協議を進めていく中、中堅教諭等資質向上に役立つコンテンツ開発と活用モデルづくりのプロセスが明らかとなりました。この取組過程は他の自治体で研修コンテンツを開発し活用モデルを構築していく上で参考となるはずです。

平成 29 年度に設定した中堅教諭等資質向上研修の仕組みの課題（希望者を収容しきれない）の解決に向け、すでに奈良市では平成 30 年度の研修の仕組みの改善を図られています。

当初は平成 29 年度の中堅教諭等資質向上研修の仕組みに合わせたプログラムを構築しましたが、平成 30 年度の仕組みの検討を重ねた結果、8～11 年次を対象とした研修の一部で運用するプログラムに変更しました。

試行錯誤の段階ではありますが、中堅教諭等資質向上研修の 1 講座として活用できるコンテンツが制作できました。次年度奈良市では、当該コンテンツを活用し、研修を実施する予定です。

活用しての効果検証をすることで、さらなる改善・向上、ICTを活用した研修プログラムの拡充につなげてまいります。

IV 教員研修におけるICT（クラウド）活用促進にむけて

(1) 具体的な取組

1. 奈良市で活用しているICT（クラウド環境）の紹介



「なら学びの広場」は平成 28 年度に奈良市が構築したクラウド環境で、インターネット環境があれば、校務の隙間や校外でもアクセスが可能のため、「いつでもどこでも使える」、奈良市の教員全員で創る学びの共有サイトです。日々の授業や学級運営の充実のために「いつでもどこでも」研修を行えるサイトを目指して運用を進めています。

2. 「なら学びの広場」の内容

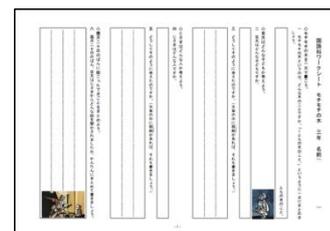
「なら学びの広場」は次の 5 つの「ひろば」があり、情報発信と研修・研鑽に活用されています。

①みんなのひろば

「みんなのひろば」では、奈良市教育センターより教員向けのお知らせを掲載しています。

②各教科・領域のひろば

「各教科・領域のひろば」は、利用者側から授業や学級運営上の工夫などについて情報発信したり、教員同士のネットワークを構築したりするためのページです。「各教科のへや」からコンテンツを投稿することができるようになっています。奈良市立学校教員が作成したワークシート等の教材や ICT 活用のアイデア、外国語科の教材等の投稿、教員同士で意見交流、共有化を目的としています。



(掲載されている資料例)

③教材のひろば

「教材のひろば」では、日々の授業や学級経営などの参考になる教材が提供されています。ここに掲載されている教材（静止画、動画、フラッシュ教材、ワークシート等）や指導資料（指導案、指導事例集等）等は、奈良市立学校教員が作成・提供したもので、同システム利用規約の範囲内で、ファイルをダウンロードして利用することができるようになっています。



④動画のひろば

「動画のひろば」では、モデル授業の映像や授業で使えるビデオ教材などを公開しています。市内学校で撮影された授業の様子を視聴することが可能です。

⑤研修のひろば

「研修のひろば」では、授業技術と保護者対応の基本をコンパクトに学習することができる映像講座（当社の e-講座）を M ラーニング動画として公開しています。初任者研修（校外研修）の事前学習や校内研修教材として、活用できるようになっています。



⑥ICT活用のひろば

この他、教員研修の通知やアンケートもクラウドを用いて、活用に取り組まれています。

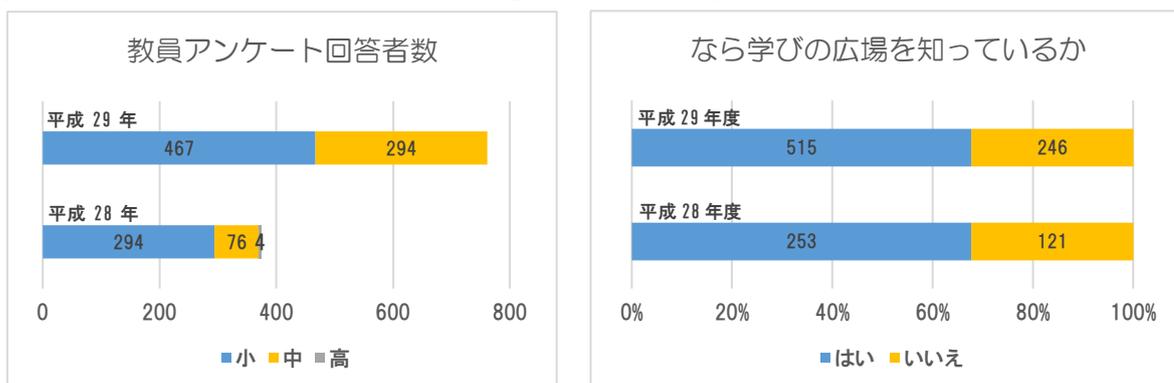
3. 活用の工夫と昨年度との比較

①奈良市教員アンケートの実施状況と考察

研修に関する意識および実施状況の実態調査を行うため、平成 29 年 12 月に奈良市の教員を対象に「なら学びの広場」において、「なら学びの広場」の認知度や利用状況、初任者研修等で必要とされる内容に関するアンケートを実施しました。奈良市内の公立学校の教員のうち 6 割以上の回答がありました。昨年は、夏期休業期間中に奈良市教育センターで実施された校外研修に参加した教員を対象に、抽出で、アンケート紙による調査を行いました。今年は、「なら学びの広場」のクラウド上でアンケートを実施したため、回答数が倍増しました。内訳も中学校教員からの回答率が 2 割程度増加し、本市の教員構成比率とほぼ同じ 6 : 4 となります。クラウド上でのアンケート実施は、アンケートの通知・用紙の配布・回収・集約に係る労力を大幅に縮小でき、対象を抽出ではなく全体に広げられたため、より多くの意見を効率よく収集できました。

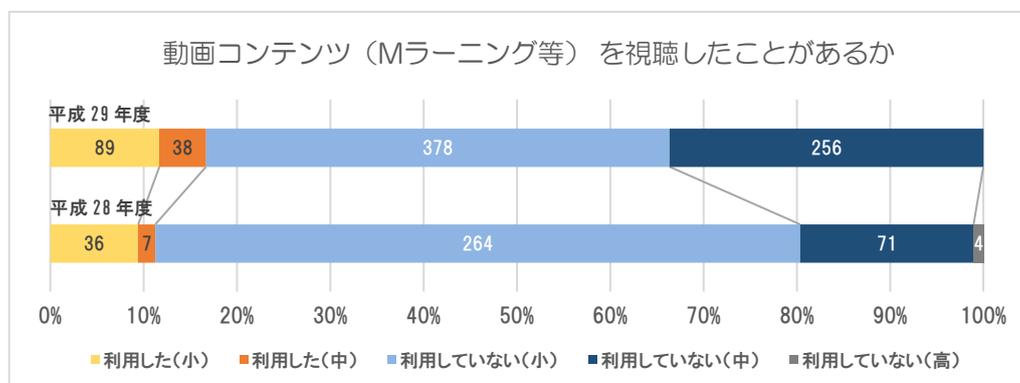
1) 「なら学びの広場」の認知度について

「なら学びの広場」の認知度は 7 割程度であり、昨年とその比率に変化はありませんでしたが、動画 (M ラーニング等) を利用したことがあると回答したことがある教員は 2 割弱 (17%) と、昨年の約 1 割 (11%) から増加しています。認知度の割合に大きな変化はなかったものの、アンケート対象の母集団が異なり、大きくなっていても同じ割合で認知されていることから、一定の浸透が図られ、活用の素地が出来上がってきていると言えそうです。

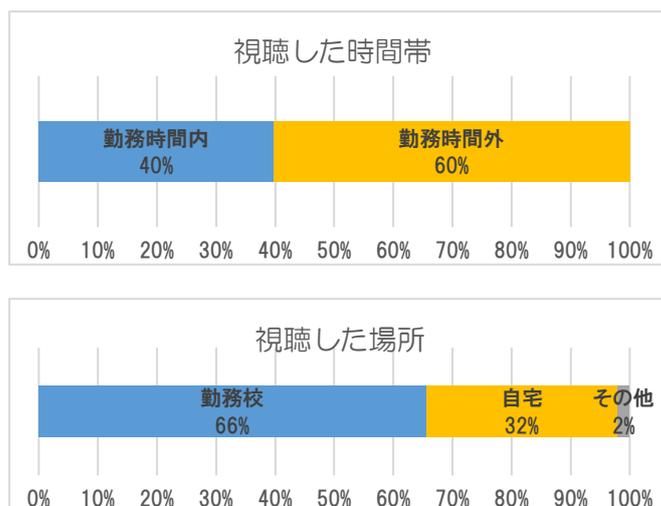


2) 動画コンテンツの利用状況について

動画コンテンツの利用率は、全体が 17% (761 人中 127 名)、うち小学校 19% (256 人中 69 名)、中学校 13% (256 人中 38 人) でした。「なら学びの広場」を知っている人のうち、動画コンテンツを利用したことのある人は、約 25% (515 人中 127 名) となっており、活用促進に向けてコンテンツの充実や周知をさらに行っていく必要があります。



3) 動画コンテンツの視聴環境に関して



動画を視聴した時間帯は勤務時間内での視聴が4割、勤務時間外での視聴が6割です。また動画を視聴した場所については勤務校が約7割、自宅が約3割となっています。勤務時間内に勤務校で視聴した教員の多くは、初任者研修において校内研修の一環として研修動画の視聴を行ったものと推察されます。勤務時間外に勤務校で映像を視聴している教員も全体の3割程度いる計算となります。

また勤務時間内に視聴した教員は小学校が43%と中学校の32%よりも多い傾向にありました。

4) 動画コンテンツを視聴した感想・意見

動画コンテンツを視聴した感想や意見については、主に初任者研修で視聴したMラーニングに対するものが大部分を占めていました。「分かりやすかった・参考になる」という内容の回答が全体の約6割となっており、動画を活用した自主的な学習が、授業の基礎基本の理解と習得に役立っていたと言えそうです。

一方、「参考にならない・実践的ではない」、「コンテンツの充実を希望する」という内容の回答を合わせると2割程度になります。Mラーニングは授業づくりや保護者対応の基礎基本を扱ったものが中心で初任者研修用のものが多く、「見たいものがない、実態に則していない」という意見が出たものと思われます。今後はMラーニングの活用方法や具体的な校内研修事例を「なら学びの広場」で紹介していくとともに、教科指導にも活かせるような動画コンテンツの充実を図れると良さそうです。また「映像視聴の時間がない・負担が大きいの」という回答もありました。相対的に初任者研修として動画コンテンツを視聴した教員からの回答が多かったこともありますが、日々の校務を行いながら自主的な学習や研修準備を行うことに負担と感じる教員がいたことは課題です。

初任者研修では、赴任後4月～7月にかけて授業の基礎基本を「なら学びの広場」の「研修のひろば」上のMラーニングで学習し、自主チェックシートを活用して最優先課題を明らかにして課題解決・改善のための具体的な取組について校内指導を受ける仕組みを整えましたが、校務の隙間での視聴が困難であった教員がいたことは確かです。自主学習や校内指導でうまく取り組んでいるケースを収集し、「なら学びの広場」で共有していくことで、周知と活用がより進んでいくものと考えます。

5) 初任者研修等に必要だと思われる項目

若手教員への資質能力向上が中堅教員の育成と同様に重要であると考えたため、初任者の研修内容で、必要と考える項目について自由記述欄を設け、回答してもらいました。多様な回答がありましたが、奈良市教育センターと協議の上、昨年同様、以下の6項目に分類し集計を行いました。

[項目の区分方法]

■学級経営・授業規律・生活指導

生活指導, けじめ, ルール, 生徒指導, 学級経営, 授業規律, 聴く姿勢づくり 等

■教科指導・学習内容・授業の組み立て (教える中身)

学習指導, 教科指導, めあての設定, 授業スタイル, 評価基準, 評価規準, 評価の視点
授業の流れ, 組み立て, 宿題 等

■児童生徒理解・コミュニケーションスキル

部活指導, 子どもとの接し方, (子どもとの) コミュニケーション, いじめ, 仲裁, 特別支援,
人権教育, 個別指導 等

■授業基本動作・指導基本スキル (どう教えるか)

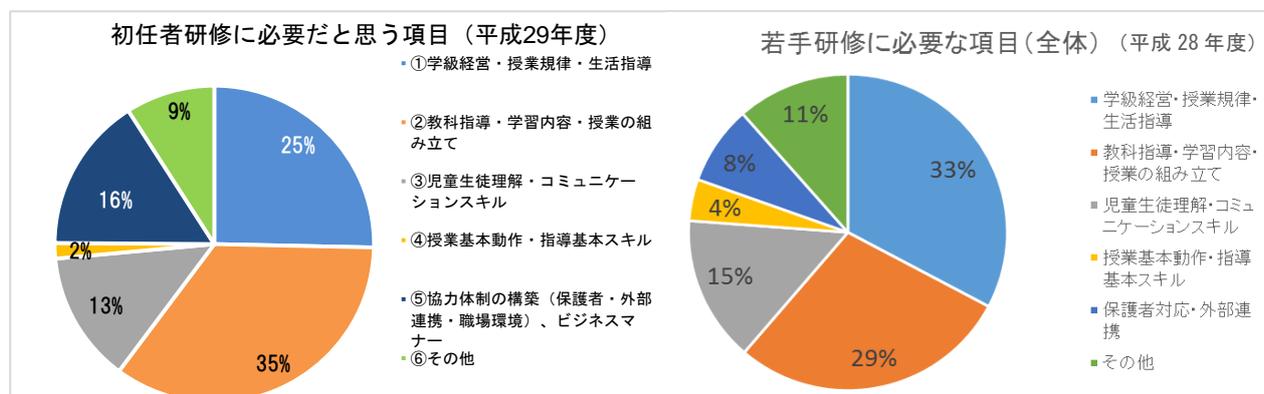
指示, 表現力, 話術, 伝え方, 発問, 板書, ICT, 評価のつけ方 等

■協力体制の構築 (保護者・外部連携・職場環境), ビジネスマナー

保護者対応, 地域との連携, 職場環境, その他保護者や地域の人との関係, ビジネスマナー等

■その他

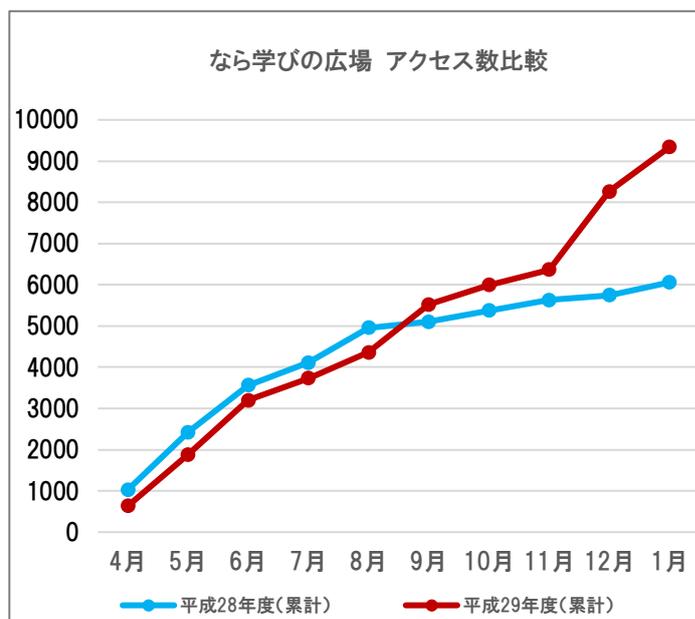
校務 (内容, 1日の流れ, 1年の流れ) 働き方 (タイムマネジメント, ストレスマネジメント,
労働者の権利) 個人情報の取り扱い, 研修の仕組み 等



初任者研修に必要な優先順位の高い項目として、「教科指導・学習内容・授業の組み立て」を重要視している割合が最も高く全体で35%となっています。「学級経営・授業規律・生活指導」が25%、協力体制の構築 (保護者・外部連携・職場環境), ビジネスマナーが16%、「児童生徒理解・コミュニケーションスキル」が13%、「その他」が9%、「授業基本動作・指導基本スキル」が2%と続いております。昨年と比べ、「教科指導・学習内容・授業の組み立て」が重要であるという回答の増加には、学習指導要領改訂に伴う道徳・外国語の教科化やICT活用の促進等、喫緊の教育課題が背景となっている部分もありそうです。また昨年は回答がありませんでしたが、今年は職場の環境づくりやビジネスマナー (社会人としてのマナー, 言葉遣い, 書類作成 等) や職場の人間関係の作り方が多く上げられており, 双方合わせると全体の10%近くとなります。配属後すぐ担任となる初任者も少なからずいることから, Mラーニングの保護者対応編の活用方法や具体的な校内研修事例を「なら学びの広場」で紹介していくとともに, ビジネスマナー等のコンテンツの充実を図っていくとよいものと考えます。

4. なら学びのひろばへのアクセス状況と考察

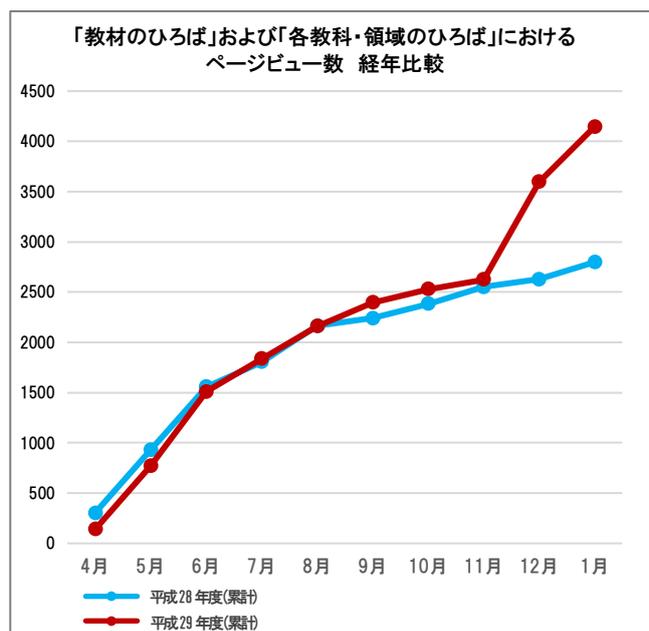
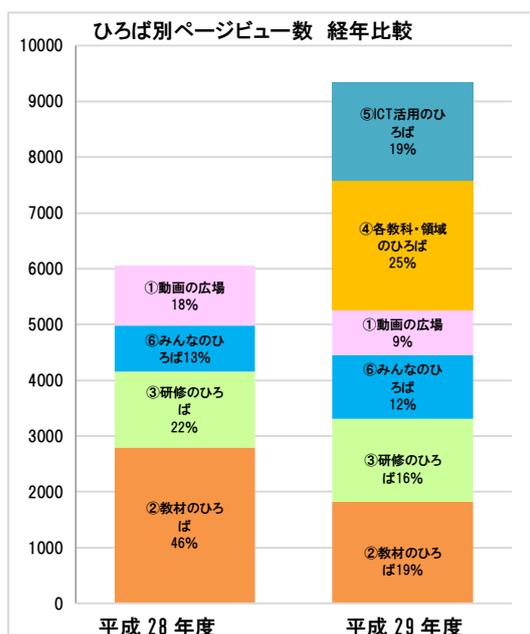
①「なら学びの広場」へのアクセス状況（経年比較）



4月～8月にかけてはマイナスのまま推移、8月下旬にICT活用のひろばが新設されたことによりページビュー数が増え、9月以降はプラスで推移していました。12月に教員アンケートを「なら学びの広場」上で実施したことに伴い、ページビュー数が激増、コンテンツ掲載ページへの累計ページビュー数が12月1か月で約1.3倍となりました。1月もページビュー数増加の傾向が続いており、1月末時点での累計ページビュー数は昨年比の1.5倍以上となりました。12・1月の平均ページビュー数は4～11月までの平均のほぼ2倍となっています。特に「教材のひろば」「各教科・領域のひろば」「ICT活用のひろば」はページビュー数が大幅に増えており、アンケート回答をきっかけとして、コンテンツの周知・活用に効果があったと言えます。

「教材のひろば」はページビュー数が大幅に増えており、アンケート回答をきっかけとして、コンテンツの周知・活用に効果があったと言えます。

②各ひろばのアクセス状況の傾向



「なら学びの広場」へのコンテンツのページビュー数は、各教科・領域のひろば（25%）が最も多く、次いで教材のひろば（19%）、ICT活用のひろば（19%）、研修のひろば（16%）、みんなのひろば（12%）、動画の広場（9%）となっております。

昨年と比べ、授業や学級経営などの参考になる資料・教材を集めた、教材のひろばのページビュー数は減少していますが、その分平成29年度から同様のコンテンツ（授業や学級経営等の参考になる資料・教材）の公開がはじまった各教科・領域のひろばのページビューが増えています。教材のひろばの更新は6月に1回あったのに対し、各教科・領域のひろばは5月～7月にかけてコンスタントに更新されており、更新数も前者の倍以上となっています。またコンテンツが更新

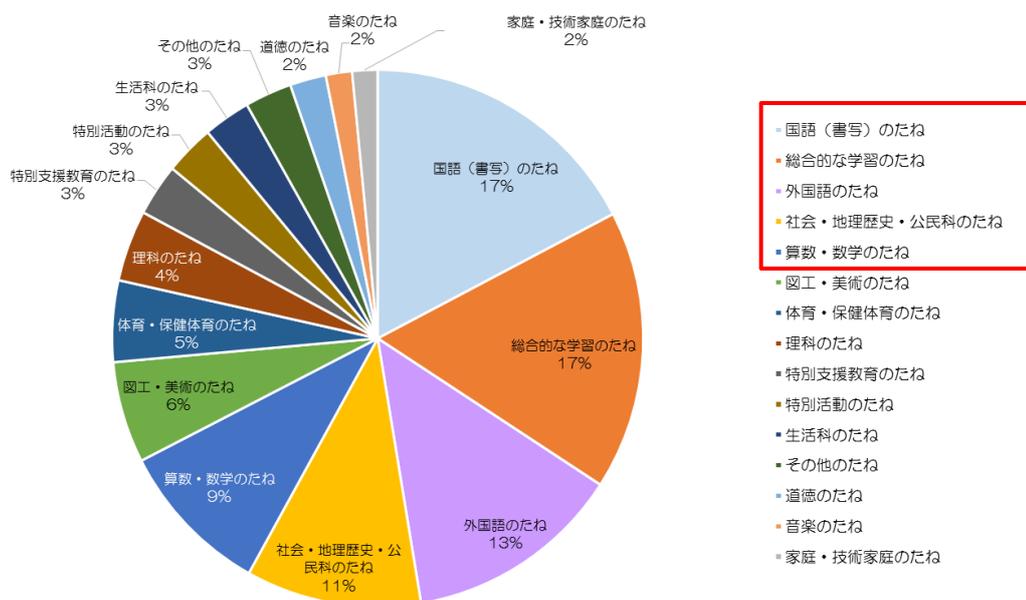
されると、「なら学びの広場」のトップページに更新情報がアップされるためページビューの促進につながっている傾向があります。

4月～11月までの両ひろばへのページビュー数の合計はほぼ横ばい、12月以降は昨年より大幅にプラスに転じており、1月末時点での累計ページビュー数は昨年比で約1.5倍になりました。なお、教材のひろばは奈良市教育委員会が資料提供を行い、各教科・領域のひろばは奈良市の一般教員が資料提供を行っております。本年の両ひろばへのページビュー数は全体の半数近く（44%）となっており、授業や学級経営に関する興味・関心が高いことを示しています。

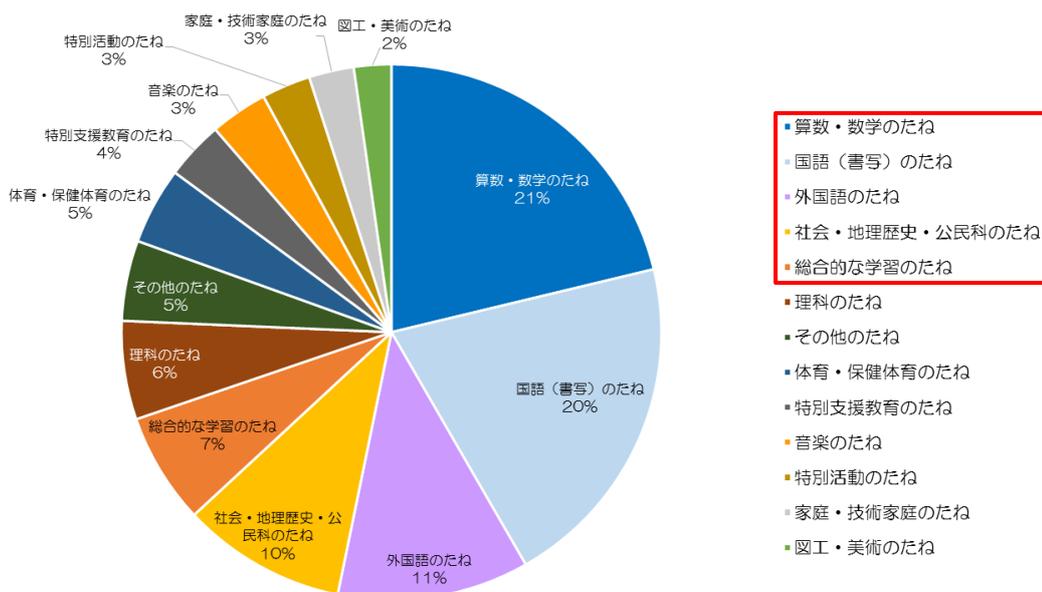
③教材のひろばの活用状況

1) 教科毎の教材へのアクセス状況

教材のひろば 科目別アクセスの割合 平成29年度(単年)



教材のひろば 科目別アクセスの割合 平成28年度(単年)



教科別の教材のアクセス割合（各教科の教材格納ページにおけるページビュー数）は、平成28年度と比べて算数・数学が減り、総合的な学習が増えています。割合に変化はあるものの上位5教科については、国語、算数・数学、社会・地理歴史・公民、外国語、総合的な学習となって

います。平成 29 年度の教材のひろばの更新数は、総合的な学習の 13 個が最も多く、次いで図画工作・美術が 3 個、生活科が 1 個となっています。総合的な学習のページビュー数が増えた背景には教材数増加による効果があると思われます。

2) 教材のダウンロード数の比較

科目	平成28年度	平成29年度
国語(書写)のたね	36	51
社会・地理歴史・公民のたね	16	49
算数・数学のたね	110	37
理科のたね	8	21
生活科のたね	6	4
音楽のたね	0	5
図画工作・美術のたね	2	10
家庭・技術家庭のたね	4	4
体育・保健体育のたね	19	17
道徳のたね	4	6
外国語のたね	96	108
総合的な学習の時間のたね	20	99
特別活動のたね	20	20
特別支援教育のたね	1	12
その他のたね	9	0
総計	351	443

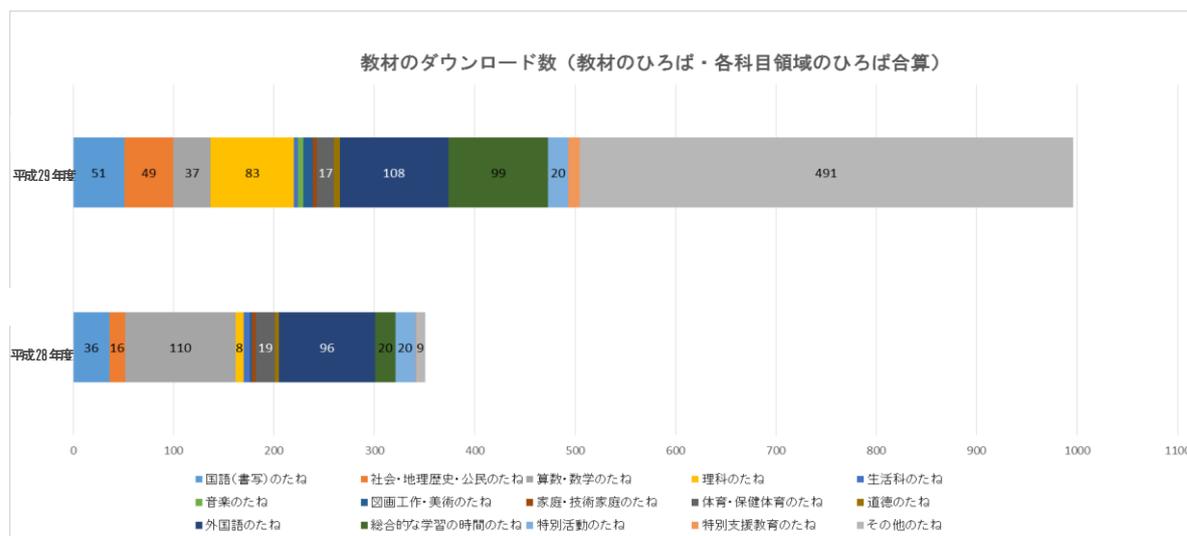
公開されている教材の数自体はあまり変化がありませんが、教材のダウンロード数は昨年よりも増えています。同じ教材を違う人がダウンロードして利用しているものと思われます。教材のひろばへのアクセス数は上述の通り昨年の 65% となっているものの、教材のダウンロード数は約 1.3 倍に増えているため実質的な活用が進んでいると言えそうです。更新のあったコンテンツにはサイトトップの更新情報からのリンクでアクセスが増える傾向にあるため、今後より一層活用を促進するためにはコンスタントに更新を行い、コンテンツへのアクセス

を促進していくことが重要です。

3) 各教科・領域のひろばの活用状況

各教科・領域のひろばのコンテンツは、ICT 活用が 22 個と最も多く、次いで理科が 8 個、特別支援が 1 個となっており、本来の目的である市内教員からの授業や学級運営上の工夫等の情報発信やネットワーク構築の場としてはまだ物足りないものがありますが、今後一層の活用が見込まれます。

特に授業における ICT 活用事例を紹介した ICT 活用通信はダウンロード数も多く、教員の興味や関心が高いことが伺われます。教材のひろばと各教科・領域のひろばの教材ダウンロード数を合算すると平成 29 年度は平成 28 年度のおよそ 3 倍となっています。



(2) 成果と課題

1. アンケートより

平成 28 年度のアンケートは紙媒体で行われましたが、平成 29 年度は、奈良市全教員を対象に「なら学びの広場」内で web アンケートに回答、提出してもらいました。このことによって、今までアクセスしたことのなかった教員が実際にアクセスし、「なら学びの広場」内のコンテンツをクリックするしかけを作りました。多くの ID、パスワードの問合せがあり、認知度を上げる面で効果的でした。また、その後、再び「なら学びの広場」にアクセスした痕跡も見られ、リーピーターを得られたことは成果として挙げられます。

また、奈良市教育センターで行った教職員研修講座について、日程や準備物を「なら学びの広場」内に掲載し、受講者に利活用してもらいました。更に、研修に参加できなかった教員のために、研修講座の一部や教育長講話などを動画として掲載しました。あわせて、各校での ICT 活用実践事例を頻繁に掲載し、「なら学びの広場」内のコンテンツ更新頻度を上げました。見るたびにコンテンツが追加され、最新の情報を提供することや研修に関わった情報や日々の教育活動に直結した情報の提供を行うことで、「なら学びの広場」の活用向上が図れたと考えます。

2. 初任者研修での活用

平成 28 年度に生じた課題の一つに、それぞれの初任者が各自行った Mラーニングが、奈良市教育センターで実施した校外研修に結びついていないことが挙げられました。その課題を解決すべく、奈良市教育センターで初任者研修を行った際、研修終了後に自主参加の形でミニ研修を行うこととしました。初任者が提出した自主チェックシートに関連する動画を用いて、初任者同士、または指導主事と対話的に内容を深める取組を行いました。毎回、受講者の 4 分の 1 (3, 4 人) が参加しました。初任者同士の意見交流、指導主事の解説も効果的で内容の理解を深めることとなりましたが、この機会によって受講者同士、又は受講者と指導主事の関係が深まり、Mラーニングを切り口に日頃の悩みや教育技術が、解決、共有される貴重な機会となったことも想定外の成果として挙げられます。一人で活用していた Mラーニングをきっかけに、学びを広げる 1 つのモデルになりえたと感じています。

また平成 28 年度に作成した「授業基礎力向上ハンドブック (初任者用)」や「Teacher's Guide」によって、従来であれば口頭で説明することに限られていた内容が、具体物を通して明確に伝達され、情報の共有を強化する結果となりました。加えて、Mラーニング使用、活用の手順がわかりやすく示されているため、「なら学びの広場」に関する初任者からの問合せは激減し、問合せ数はわずかとなりました。

3. まとめ

周知と活用の課題解決のために、平成 28 年度の成果物が有効活用されました。

研修案内や、教育長講話の動画等をクラウドにアップすることや、ICT 活用等、教員のニーズに応えるコンテンツの充実を図り更新を定期的に行うことで活用度が上がりました。

また、アンケートをクラウド上で行うことで、事務作業負荷軽減・回収率向上につながりました。

教員研修における ICT (クラウド環境・「なら学びの広場」) 活用促進にむけ、教員のニーズに応えるコンテンツのアップロード、教員間のコミュニケーションツールとしての活用、教員の負荷軽減・負担軽減につながる施策について検討を続けていきます。

V 第三者評価委員会の実施報告

(1) 第三者評価委員会の概要

本調査研究事業について学識者からの評価を受け、事業の客観的評価、さらなる改善を図ることを目的として、第三者評価委員会を実施しました。

日 時	平成 30 年 3 月 1 日 13:00~15:00
場 所	奈良市教育センター8F 研修室
出席者	外部評価委嘱者 3 名, 事業実施者 5 名 計 8 名
議事進行	13:00 ~ 13:30 事業概要の説明 13:30 ~ 14:00 質疑応答 14:00 ~ 14:50 講評 (各第三者評価委員) 14:50 ~ 15:00 総括・閉会挨拶 (事業実施責任者)

外部評価委員 (敬称略)

[学識者]

国立大学法人大阪教育大学 教職教育研究センター 島 善信 (特任教授), 岡田 耕治 (教授)

国立大学法人 奈良教育大学 次世代教員養成センター 赤沢 早人 (准教授)

[事業実施者]

奈良市教育センター 教育支援課 垣見 弘明 (課長補佐), 皿木 博幸 (研修・研究係長)

早稲田アカデミー 営業戦略部次長兼事業推進課長 杉山 正典,

人材開発部育成課上席専門職 牛嶋 孝輔,

営業戦略部事業推進課事務主任 川上 愛美

(2) 第三者部評価委員の講評 (抜粋)

1. 校内研修について

島特任教授より

まず、奈良市と早稲田アカデミーが、教員の自発的な研修について課題意識を持ち、協働して調査研究に取り組んでいることは素晴らしいことである。早稲田アカデミーと奈良市の協働関係を強固にし、来年度はさらに研修が充実できるように大いに期待したい。

その上で評価をすると、本施策はテーマ、ゴールをどう設定するかが大事となる。自主的、自発的な研修は、教員の努力や意欲だけでなく、教育委員会が学校現場を支え、応援するなどの調整があつて初めて実施できる。教員には学び続けること、自発的活動が求められ、教育委員会は、教員の学びを促す環境整備が必要となり、早稲田アカデミーは、研修内容や研修素材の提供が求められる。

教育委員会が様々な研修手法を提示し、その学校に合う手法を選べるように整え、学校での研修が、効果的に進んでいるかチェックできる仕組みづくりが必要である。校内研修は、今年度モデル校の 2 校を調査対象とした。それが広がって市内 3 分の 1 の学校で校内研修が実施できたらよい。更に周知が進み、実施が過半数を超えると、市内の学校で研修の実施が前提になる。自発的に研修を実施する状況をどう作るか、という視点で考えるとよい。

モデル校で実施された校内研修のアンケートの評価を見てみると、校内研修によって「4」が一番多い研修と、「3」が一番多い研修がある。そこに研修の限界と課題がある。なぜ「4」が多いのか、「3」が多いのか、評価に差が生まれた要因を探ることで、次の研修の工夫改善につながる。学校現場の自主性を待たず、意欲を高める工夫を行ってほしい。

岡田教授より

中堅教員がリーダーシップを取って校内研修をするというねらいがすばらしい。各校での悩みを課題として取り上げ協議するためには、情報交換のできる仕組みづくり、コミュニティ作りが肝要である。コミュニティでの情報交換を通じて、「なら学びの広場」の中のコンテンツの内容や活用方法が共有され活かされていくとよい。「なら学びの広場」の中で、若手が日々悩んでいることのつぶやきを集めていくような仕掛けがあったら、コンテンツの有効な活用が進んでいくのではないだろうか。

2. 映像コンテンツについて

島特任教授より

映像コンテンツの課題として、まずは、コンテンツの活かし方の検討を行うとよい。コンテンツをどう研修に活かすかを説明した解説書が必要である。活用方法が理解できる資料があることで、さらに研修が活かされる。次に、映像は場面が変わるところに、次の場面がわかるような目次があると良い。今どこを学んでいるか、映像上で分かる工夫があると良いだろう。

指導をする上でつまずきやすいところは2つある。子どもが理解する上でつまずきやすいところと、教員が指導する上でつまずきやすいところだ。例えば、実験においてこの留意事項を外すと危険、という観点を映像コンテンツに入れると内容的にさらに充実するのではないか。

研修素材を用いて、「役立ったか」という効果検証は教員の感想だけでは不十分である。数量化して傾向や特徴について分析していく必要がある。また、マイナスのコメントの中にこそ、課題改善のヒントが多く隠されているので、よく分析を行うこと。

岡田教授より

映像コンテンツは、よくまとめられている動画だと感じる。研修の時に、このコンテンツを事前課題とすることで、研修の時間が圧縮される。研修の申込者には、動画に出てくる実験道具を合わせて配付する等の工夫があるとよい。コンテンツを見て、実物をもとに、実験が出来れば、教員は負荷がかからず、すぐに使えるので意欲的にコンテンツを活用し、評判がうまれることで視聴が一気に拡がると思う。

3. ミドルリーダーの資質能力をどのように設定するか

赤沢准教授より

この事業は、教員の資質能力向上のための研修モデルの構築が目的で、特にミドルリーダーの力量形成を主としている。研修のモデルやコンテンツの開発をしたので、ミドルリーダーの資質能力とは何なのか、想定があると良い。

ミドルリーダーがこの研修を通じて「こういうことができるようになれば良い」という、力量形成の想定が必要。その上で校内研修を組織し、仕組みづくりをミドルリーダーに期待する。教科指導に関する研修も同様である。力量形成の想定を整理し、成果として「何を目指してどのように寄与した」とあった方がよい。

教員の自発的な研修について、公教育と民間教育機関とが協働して調査研究に取り組むことについて第三者評価委員より高い評価をいただきました。学校現場や教員の視点に立って、教育委員会が学校現場を支え、応援するなどの調整していくこと、早稲田アカデミーは、研修内容や研修素材の提供と合わせて、それらを具体的にどのように活用すると効果的かについて民間教育機関としてのノウハウを可視化した「研修の手引」のようなものを提供していくことで、自主的、自発的な研修と教員の学び続ける姿勢、自発的活動が促進されることを改めて確認できました。

本年度の取組の成果と課題を明らかにすることで、本年度の総括と次年度に向けた指針の参考となりました。

VI まとめ

(1) 取組のポイント・成果

1. ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

①奈良市が指定した学校で研究主題に基づいて校内研修をミドルリーダーが企画立案・実行し、学校が直面する課題を解決するための研修・研究に取り組みました。

学校の教育課題を解決すべく、めざす教師像、めざす児童生徒像を追究していく中で、ミドルリーダーが中心となって「イブニング研修」「のびのび研修」といった自主的な「ミニ研修」を企画・立案し、実施、評価する取組が、「ミドルリーダーの成長機会」となりました。

モデル校となった小中学校での実践事例をまとめた映像を制作することで、事例が可視化され、今後同様の研修をミドルリーダーが中心となって他校でも行い、広げていくための参考資料を提供することができました。

成果物 ミドルリーダーによる校内研修事例の紹介 映像コンテンツ

②M ラーニング等の ICT 活用推進により、チーム学校づくりにつながる教員間の協働を進めることも、シナジーとしてねらいました。

モデル校でミニ校内研修の回を重ねるごとに、組織的な学習や焼酎連携の取組が促進されていく過程が見られました。組織的な学習としてベテラン教諭や中堅教諭が各々にもっている「暗黙知」の「形式知化」が進み、「共通言語」による世代間ギャップの解消や若手教員との交流の深まりにもつながりました。

2. 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

①中堅教諭等資質向上研修の受講対象者（4 年次～11 年次）に必要とされる学校運営の中間管理における資質能力や教科指導における専門的なスキルを高めるためのコンテンツ開発を目指しました。

教員の多忙間に配慮しつつ負荷軽減を図るため、ニーズの高い教科指導力向上のための講座の映像コンテンツを開発することができました。

成果物 中堅教諭等資質向上研修 映像コンテンツ

- ・小学校理科・・・3 年生「風やゴムの働き」、4 年生「金属、水、空気と温度」
5 年生「もののとけ方」、6 年生「理科室の使い方」
- ・小学校体育・・・「子どもの安全に配慮した授業づくり」
・オリエンテーション

②ICT を活用した研修プログラムとすることで、個別の事情に応じて、効率的且つ弾力的に受講できる体制を整え、多忙感や負荷に配慮しながら、対面・集合研修と同等の研修効果が得られるよう留意しました。

平成 30 年度の中堅教諭等資質向上研修の 1 講座として活用できるプログラムの開発ができました。次年度奈良市では、当該コンテンツを活用し、研修を実施する予定となっています。活用と効果検証による、更なる改善・向上、ICT を活用した研修プログラムの拡充につなげてまいります。

(2) 平成 30 年度に向けて

1. ミドルリーダーによる校内研修企画立案・実行モデルづくり

ミドルリーダーが中心となって、意欲的に校内研修を行っていくためには、スケジュール調整を含めた「①研修企画・立案」だけでなく、研修実施前の準備として「②研修講師選定」「③研修通知方法」「④研修準備」という点においても支援していく必要があります。

これら3つを加えることで、「研修開発プロセス」として、ミドルリーダーが中心となって、校内研修を「①企画・立案し、②研修講師を選定し、③研修内容を十分検討の上通知し、④研修準備を行い、⑤研修を実施し、⑥研修評価を行う流れ」ができるものと考えます。その流れに則って、研修実践することができるよう、教育委員会とモデル校での実践事例を整理し、「なら学びの広場」での公開などを通じて、学校（ミドルリーダー等）の支援ができる手立てについて研究を進め、より連携を図ってまいります。

2. 中堅教諭等資質向上研修で活用できるコンテンツ開発と活用モデルづくり

中堅教員に求められる教科指導等のスキル向上を、自主学习（映像講座の受講とワークシートへの取組）と実践（予備実験とレポート作成等）により、図る研修プログラムを開発しています。次年度は、当該プログラムを活用した法定研修（中堅教諭等資質向上研修）を、奈良市が策定した自己啓発研修（教科等課題研修）に組み込み、実施する予定です。レポート内容やアンケート等から受講者の学びを集約することで、活用度が高められると考えています。

3. 教員研修におけるICT（クラウド環境・「なら学びの広場」）活用促進にむけて

活用状況を集約する中で、前年比で「なら学びの広場」の認知度が高まり、クラウド内のコンテンツ活用機会も増えていることがわかりました。更なるクラウド内コンテンツ（学習指導案や教材）の活用により、教員の指導力向上や授業内容の充実等を実現するために、クラウド内コンテンツを活用して何ができるか、どのように役立てられるか等の具体的な活用方法や活用事例を紹介する必要があると課題認識を持ちました。

クラウド内コンテンツの活用方法を映像や図、写真を使って可視化したコンテンツをまとめると、教員の教材研究の充実や授業運営力の向上に役立つイメージがつきやすくなり、コンテンツの活用促進に寄与すると考えます。今後、活用促進のためのコンテンツの制作や運用について、検討を継続してまいります。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、株式会社 早稲田アカデミーが実施した平成 29 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。